

原 州 城 鄉 土 誌 目 次

第1編 總 論

第1章 古地名變遷史51

- 第1節 歷代郡名.....51
- 第2節 上古時代.....51
- 第3節 三國鼎立時代51
- 第4節 新羅時代.....51
- 第5節 高麗時代.....51
- 第6節 李朝時代.....52

第2章 建置沿革54

- 第1節 江原道沿革.....54
- 第2節 原州市 建置沿革.....54
- 第3節 신증동국여지승람 제46권.....54
- 第4節 鄉土通史 概觀.....64

第3章 風土와 氣候72

- 第1節 氣象概況72
- 第2節 天 氣73
- 第3節 氣溫 및 降雨量74
- 第4節 風向과 風速.....74
- 第5節 氣候와 動植物.....75
- 第6節 風土와 動植物.....76

第4章 地 勢.....77

- 第1節 地勢 및 位置77
- 第2節 山川 및 津遷77
- 第3節 貯水池 및 堤防81
- 第4節 道路 및 橋梁82
- 第5節 山勢와 城池.....88

第5章 風俗과 慣習90

- 第1節 風 俗.....90

第 2 節	冠婚喪祭	90
第 3 節	產 俗	99
第 4 節	婚 禮	100
第 5 節	祭 禮	105
第 6 節	가정의례준칙	107
第 7 節	歲時風俗	116
第 6 章	衣食住와 生活	135
第 1 節	生活와 慣習	135
第 2 節	衣生活	135
第 3 節	食生活	142
第 4 節	住生活	145
第 5 節	娛 樂	146
第 6 節	農 樂	149

第 2 編 政治 및 行政

第 1 章	地方行政制度 및 疆域	153
第 1 節	官員制度	153
第 2 節	江原監營	154
第 3 節	原州牧의 官職判官	155
第 4 節	軍事制度	155
第 5 節	陸軍(兵馬)	155
第 6 節	關 防	155
第 7 節	疆界 및 官職(原州牧)	157
第 2 章	原州郡時代 坊里	158
第 1 節	坊 里	158
第 2 節	諸 縣	158
第 3 章	市와 郡의 略史	161
第 1 節	市와 郡의 制度背景	161
第 2 節	原州市의 略史	161
第 3 節	原州市 各洞의 變遷	162
第 4 節	略 史(原城郡編)	172
第 5 節	各面의 變遷	174

第 6 節	새마을 指導者 名單	195
第 7 節	새마을 民間團體 協議會	199
第 4 章	人 口 的 發 達 과 姓 氏 分 布	200
第 1 節	戶口概觀	200
第 2 節	人口構成	200
第 3 節	人口調查 實態	202
第 4 節	姓氏分布	202
第 5 章	科 舉 制 度 和 原 州 登 第 人 物	208
第 1 節	科舉制度和 考試	208
第 2 節	座主門生	208
第 3 節	貢 士	208
第 4 節	監 試	209
第 5 節	制科 賓貢科	210
第 6 節	及第者의 待遇	210
第 7 節	李朝時代의 科舉	211
第 8 節	科舉登第人物錄	216
第 9 節	蔭筮와 壽職	221
第 6 章	獨 立 運 動 和 原 州	226
第 1 節	獨立運動의 概觀	226
第 2 節	義兵運動의 震源地	226
第 3 節	義兵日誌	229
第 4 節	抗日運動	229
第 5 節	親日前衛로서의 一進會	230
第 6 節	獨立宣言書	233
第 7 章	民 族 解 放	236
第 1 節	8.15 解放과 混亂期	236
第 8 章	自 主 獨 立 和 政 治	243
第 1 節	序 論	243
第 2 節	政黨政治	244
第 3 節	解放에서 第1共和國까지	245
第 4 節	第2共和國	247
第 5 節	第3共和國에서 第4共和國까지	248
第 6 節	國民主權機關	249

第 7 節	朴正熙大統領 維新語錄	250
第 8 節	10月維新	252
第 9 節	새 마을運動의 意義	254

第 9 章 民主政治와 選舉

第 1 節	選舉는 民主政治의 바탕	260
第 2 節	選舉와 施行	260
第 3 節	大統領 및 副統領選舉	261
第 4 節	地方自治와 選舉	269
第 5 節	國民投票	273
第 6 節	國會議員選舉	275

第10章 行 政

第 1 節	指 標	284
第 2 節	財 政	286
第 3 節	行政機關	291
第 4 節	司法와 行政機關	300

第 3 編 社 會

第 1 章 福祉事業 및 保健機關

第 1 節	保健行政의 歷史	305
第 2 節	社會福祉事業	306
第 3 節	醫療機關	307
第 4 節	水道 및 電氣	313

第 2 章 社會團體

第 1 節	鄉土團體	316
第 2 節	社會運動團體	317
第 3 節	女性團體	320
第 4 節	軍警團體	321
第 5 節	保健團體	322
第 6 節	公益法人團體	323

第 4 編 經 濟

第 1 章 金 融

第 1 節	貨幣 및 金融史	327
第 2 節	金融機關	328
第 2 章	遞信・交通・運輸	335
第 1 節	遞信 및 通信	335
第 2 節	遞信現況	335
第 3 節	交通・運輸	337
第 4 節	交通・運輸機關	341
第 3 章	農 業	344
第 1 節	農業斗 自然的條件	344
第 2 節	普通作物	346
第 3 節	農村生活改良事業	357
第 4 節	養 蠶	357
第 5 節	園 藝	358
第 6 節	葉煙草	359
第 7 節	畜 產	360
第 8 節	林 業	364
第 4 章	商 工 業	367
第 1 節	原州商工會議所	367
第 2 節	鑛工業	367
第 3 節	市 場	370
第 4 節	商工業體	372
第 5 節	接客業所의 現況	378
第 6 節	接客業所一覽	379

第 5 編 教育・文化

第 1 章	教育의 發達斗 教育機關	393
第 1 節	新文化運動	393
第 2 節	教育斗 教育者의 使命	394
第 3 節	李朝의 教育	394
第 4 節	日帝侵略教育	396
第 5 節	自主獨立斗 教育	398
第 6 節	原州市 教育廳	403

第 7 節	初等教育機關一覽	403
第 8 節	中等教育機關一覽	417
第 9 節	大學教育	426
第 10 節	私設教育機關	427
第 11 節	新明女學校 略史	434
第 2 章	文 化	439
第 1 節	言 論	439
第 2 節	放 送	442
第 3 節	文化事業機關	444
第 4 節	藝總原州支部	446
第 5 節	體育機關	450
第 6 節	興行業體	453
第 7 節	出 版	453
第 8 節	文化賞 受賞者名單	454
第 3 章	宗教分布	455
第 1 節	여리宗教의 史的考察	455
第 2 節	土俗信仰	456
第 3 節	韓國佛教의 史的考察	459
第 4 節	佛教의 道德	489
第 5 節	天主教思想의 史的考察	492
第 6 節	基督教思想의 史的考察	501
第 7 節	天道教思想의 史的考察	510
第 8 節	其他 信仰團體	511
第 4 章	民俗과 歌謠	512
第 1 節	俗 談	512
第 2 節	鄉 謠	523
第 3 節	누누개끼	534

第 6 編 文化財와 名勝古蹟

第 1 章	文 化 財	547
第 1 節	概 說	547
第 2 節	國 寶	548

第 3 節	寶 物	550
第 4 節	無形文化財	553
第 5 節	天然記念物	553
第 6 節	史 蹟	557
第 7 節	非指定文化財	557
第 8 節	鄉校・墓碑 吳 祠宇	559
第 9 節	佛像 吳 彫刻物	561
第 10 節	城址 吳 寺址	562
第 11 節	史蹟 吳 文獻	563
第 12 節	動物碑	563
第 13 節	名勝地 吳 遊園地	564
第 2 章	碑碣 吳 碑銘	566
第 1 節	善政碑	566
第 2 節	墓碑 吳 碑銘	567
第 3 章	鄉土遺蹟	587
第 1 節	風 俗	587
第 2 節	形 勢	587
第 3 節	土 產	587
第 4 節	進 貢	587
第 5 節	橋 梁	587
第 6 節	船 隻	587
第 7 節	堤 堰	588
第 8 節	市場五處	588
第 9 節	驛 院	588
第 10 節	站舍四處	588
第 11 節	牧 場	588
第 12 節	烽 燧	588
第 13 節	古 蹟	589
第 14 節	陳頃免稅雜位	590
第 15 節	徑 役	590
第 16 節	陵 墓	591
第 17 節	佛 宇	594
第 18 節	樓 亭	595
第 19 節	宮室公廨	598

第 20 節	高麗以來의 官衙建物	601
--------	------------	-----

第 7 編 戰亂史와 傳說

第 1 章	戰亂史	613
第 1 節	戰亂의 略史	613
第 2 節	後三國의 亂	613
第 3 節	高麗戰亂史	615
第 4 節	壬辰倭亂	622
第 5 節	6.25動亂	625
第 2 章	傳 說	632
第 1 節	神과 도깨비 傳說	632
第 2 節	佛教와 傳說	638
第 3 節	戰爭과 忠義의 傳說	641
第 4 節	天文과 風水의 傳說	644
第 5 節	官과 有關한 傳說	648
第 6 節	自然 및 月과 傳說	655
第 7 節	智力과 文集	657

第 8 編 人 物

第 1 章	鄉土輩出人士錄	665
第 1 節	人物編輯序論	665
第 2 節	上古時代人物	665
第 3 節	中古時代人物	674
第 4 節	李朝의 文臣	679
第 5 節	忠義志士 및 武臣	690
第 6 節	義兵 및 憂國志士	697
第 7 節	孝行錄	698
第 8 節	其 他	698
第 9 節	知名人士	700
第 10 節	原州・原城各機關長 名單	729

第1編 總 論

- 第 1 章 古地名 變遷史
- 第 2 章 建置沿革
- 第 3 章 風土と 氣候
- 第 4 章 地 勢
- 第 5 章 風俗と 慣習
- 第 6 章 衣食住と 生活

原州·原城 郷土誌

第1章 古地名 變遷史

第1節 歷代郡名

평원군(平原郡) 북원경(北原京) 일신(一新) 정원(靖原) 익흥(益興) 성안(成安) 평량정(平凉京) 학성(鶴城) 원성(原城) 원주(原州) 등으로 變遷되어 왔다.

第2節 上古時代

三國時代 以前 上古時代에는 한 部落國家的 形態를 이루었던 것으로 보이며 한편 濊貊과도 關聯이 있는것 같이 傳해지기도 하나 이것은 考證할만한 根據는 없다.

第3節 三國鼎立時代

오늘의 原州, 原城地方은 古代 辰韓의 發祥地로서 漢山城(지금의 廣州)을 中心으로 한 百濟의 勢力이 四世紀初부터 帶方郡의 漢族勢力을 몰아내고 漢江 下流地域 一帶를 차지하니 이때 부터 百濟에 屬하게 되었다. 그러나 北쪽 鴨綠江 流域에서 일어난 高句麗의 勢力이 大同江 流域의 樂浪郡을 征服하면서 南下하게 되고 半島 東南部에서 일어난 新羅의 勢力이 팽배하여 北上하게 되면서 漢江 以南의 中部地方은 百濟, 高句麗, 新羅等 三國 사이에 攻擊의 中心地가 되어졌었다. 西紀 五世紀 中葉 長壽王때에 高句麗는 그 國都를 鴨綠江 沿岸의 國內城으로 부터 平壤으로 옮기고 그 勢力을 南쪽으로 뻗쳐서 百濟의 王都 漢城(지금의 廣州)을 陷落시켰다. 그리하여 그 後부터 漢江流域은 全部 高句麗가 領有하게 되매 原州, 原城은 高句麗에 屬하게 되고 이때 부터 平原郡이라 하였다.

第4節 新羅時代

그 후 百濟는 新羅와 合勢하여 漢江 以北에 이르기까지 잃었던 땅을 回復할 수 있었으나 新羅 第24代 眞興王때는 百濟를 攻擊하여 漢江流域의 땅을 完全히 차지하면서 이를 新州라 號稱하였고 다시 北漢山州를 두었으니 이로 부터 新羅에 領屬하게 되었다. 그 후 新羅가 三國統一의 課業을 成就하고, 九州 五小京의 制度를 두는 한편 其他 制度를 整備할 때 平原郡을 北原京으로 改稱하게 되었다. (京은 지금의 直轄市와 같다)

第5節 高麗時代

高麗가 建國함에 衰亡期에 들어선 新羅와 새로 일어난 後百濟와의 競爭은 자못 熾烈하여 突然 三國鼎立期를 再現하니 新羅는 大略 尙州, 良州, 唐州를 保持하므로 統一前의 新羅領域을 恰似케 하고 後百濟는 熊州, 完州, 武州, 즉 前의 百濟領域을, 그리고 高麗는 漢州, 朔州, 溟州, 즉 高

第1編 總 論

句麗 南部를 占하게 되었으니 原州는 高麗에 領屬되고 高麗 太祖 23年(940)에 北原京을 폐하고 原州郡으로 改稱하였다. 그런데 高麗初에는 別로 地方의 組織의인 編制가 보이지 않더니 6代 成宗 2年(985)에 비로소 古代中國의 周나라 제도를 모방한 12個州를 設置할 때 州長官인 忠州 牧使 管轄下에 屬하게 되었다. 同王 13年(995) 乙未에 이르러 地方行政區域은 다시 再改編되었는데 이때 全國을 12牧 10道로 나누어 廣州, 楊州, 忠州, 淸州, 公州, 晉州, 尙州, 全州, 羅州, 昇州, 黃州, 海州등을 12牧으로 삼고 關內, 中原, 河南, 江南, 嶺南, 嶺東, 山南, 海陽, 朔方, 溟西等 道를 10道로 삼을 때 原州는 亦是 中原 行政區域內에 있었고 改編할 때에도 中原道에 屬한 郡으로 州知事가 配置되었다. 顯宗 9年(1010)에 다시 行政區域을 改編할 때 中原道 按撫使를 廢하고 忠州牧이 될 때에도 原州는 忠州牧에 屬하였다. 그 後 16代 睿宗때에 다시 全國을 5道(楊廣道, 慶尙道, 全羅道, 交州道, 西海道)와 兩界(東界, 北界)로 나눌 때 原州는 交州道에 屬하게 되었다. 이 때 交州道는 지금의 江原道를 稱한것이나 江原道라는 名稱은 李太祖 4年(1395)에 처음으로 原州에 監營이 있게 될 때부터 始作된 이름이다.

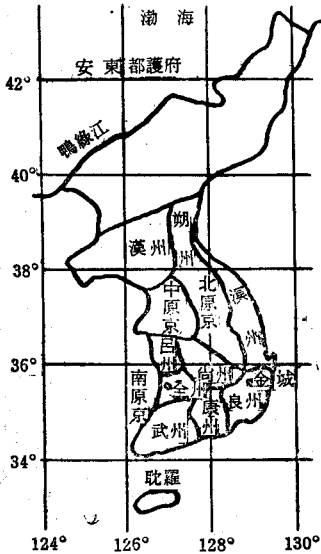
第6節 李 朝 時 代

朝鮮 王朝 初創期에는 대체로 麗末의 制度를 그대로 承襲하였던 것이나, 于先 太祖 4年(1395)에 처음으로 江原道라는 道名이 생기게 되었으며 따라서 江原道를 統轄하는 江原觀察府가 原州에 있게 되었고, 行政區域으로는 1府 3郡 3縣이었는데 府는 春川이었고 郡은 平昌, 寧越, 旌善이었고 縣은 麟蹄, 洪川, 橫城이었으며 酒泉은 原州의 屬縣이었다. 이는 太祖 即位 3年(1394)10월에 開城으로 부터 漢城으로 遷都하게 되며 이에 附隨하여 京畿道를 再編하게 되니 翌 4年(1395)에 從來 楊廣道의 楊州, 廣州牧地方이 京畿에 編入되고 나머지 忠州, 淸州牧地方을 忠淸道로 改稱하고, 朔方道와 中原道의 一部分을 합쳐서 江原道로 하였다. 이것이 오늘날의 江原道の 始初였다. 그 후 太宗 13年(1413)에 와서 다시 地方行政組織을 改編하니 全國을 八道로 즉 京畿, 忠淸, 慶尙, 全羅, 江原, 豐海(現 黃海道), 平安, 永吉(16年 改威吉中宗 4年 改威鏡)로 나누어 各各 觀察使(從二品官)俗稱 監司를 두었으며 地方 中心地로서 四府를 慶州, 全州, 永興, 平壤에 두어 各各 府尹(從二品官)이 있고 四大都護府를 安東, 江陵, 安邊, 寧邊에 두고 大都護府使(正三品官)가 있고 그 밑에다 20牧에 牧使(正三品官) 44都護府에 都護府使(從三品官) 82郡에 郡守(從四品官) 175縣에 縣令(從五品官) 縣監(從六品官)을 各各 두었다. 이때 原州에 있는 江原監營에는 監司가 配置되었으며 監司는 觀察使 겸 巡察使의 兼職官으로 水軍兵馬節度使를 따로 駐在케 하였다. 한편 左營은 春川에 두고 中營은 橫城에 右營은 三陟에다 두고 巡察使가 定期的으로 巡廻하며 任務에 當했다. 그 후 肅宗 九年(1683)에 原州의 한 女人이 自己 男便을 도끼로 찍어 죽인 不祥事로 因해서 鎭管府를 廢하고 一新縣으로 降等 改稱하였고 다시 肅宗 28年(1702)에 原州牧으로 回稱 昇格되었다가 英祖 11年(1735)에 原州人 鄭 茂重의 모반사건으로 地名이 降等되어 鶴城縣으로 改稱되었으며 縣令이 配置되었다가 또 英祖 14年(1738)에 다시 原州牧으로 昇格되었다. 얼마 안되어 牧使의 家族을 營門안까지 들어오게 했다는 理由로 格을 낮추어 判官을 삼고 牧使가 直接 巡營하는 일 까지 兼任하게 하였다. 그 후 高宗 32年 甲午更張때까지 482年間은 降等 回復을 繼續하는 外에 큰 變化는 없었다. 그러나 高宗 32年(1895)에 全國을 23府 336郡으로 나누었다. 즉 勅令 第983號로 8道制를 廢하고, 改編한 일인데 이 때 江原道를 2府 26郡으로 區分함에 있어 原州의 監營을 없애고 春川府와 江陵府에서 統轄하게 됨에 따라 原州는 다시 忠州觀察府로 移屬되었다. 翌年인 高宗 33年(1896, 建陽元年 8月 4日)에 勅令 第35號에 依하여 全國을 13道로 分轄 實施할 때 原州는 다시 江原道 行政區域으로 歸屬하였다. 이때 江原道の 首府는 春川으로

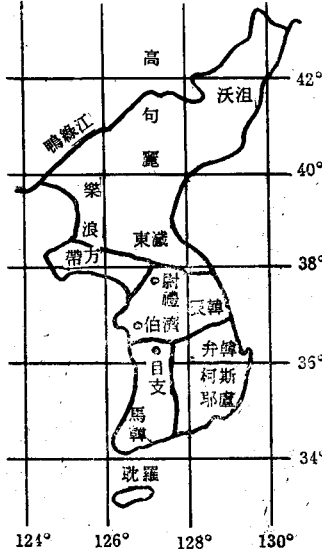
觀察使가 配置되었다. 當時의 全國 各郡을 五等級으로 區分하고 等級에 따라 官員數와 俸給 經費等의 差가 있었는데 原州郡은 4等級의 郡으로 21個面이었다. 本部面, 梧田洞面, 沙堤面村, 板梯面村, 今勿山面, 仁坡面, 彌乃面, 富論面, 康川面, 池內面, 地向谷面, 正之安面, 古毛谷面, 好梅谷面, 所草面, 水周面, 左邊面, 右邊面, 加里坡面, 沙斤寺面과, 邑內面이었다. 그 後 1910年(純宗 4年) 8月 22日에 韓日合併條約이 締結됨과 同時 10月에 朝鮮總督府가 設置되고 臨時 土地調查局을 設置하고 1913年 12月 29日자로 總督府令 第 111號가 1914年 3月 1日자로 施行됨에 따라 康川面을 京畿道 驪州郡으로 移屬하고 書院面 (舊古毛谷과 地向谷面)을 橫城郡으로 酒泉의 右邊, 左邊, 水周等 面을 寧越郡으로 移屬시키고 작은 面村을 統合하여 本部面, 所草面, 好梧面, 地正面, 文幕面, 富論面, 貴來面, 興業面, 神林面, 板富面等 10個面으로 統合하였다. 이 때에 비로소 原州郡이 確定되었던 것이다. 옛 原州 邑誌 첫장에 鎭管 原州牧이란 記錄에 보면「東至平昌郡界125里東南至寧越府界120里忠清道堤川縣界50里同道忠州牧界55里西至京畿砥平縣界70里同道驪州牧界70里北至橫城縣界30里距京都240里距監營120步」로 기록하고 있다.

(以下는 市·郡略史에서 轉記된다)

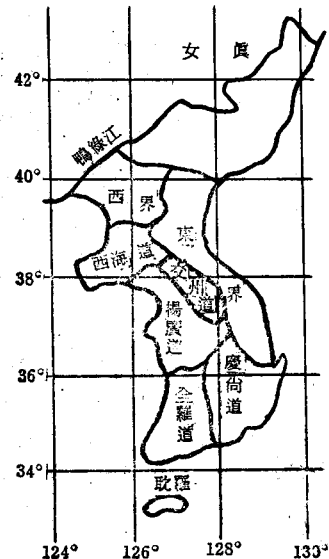
九州五京圖



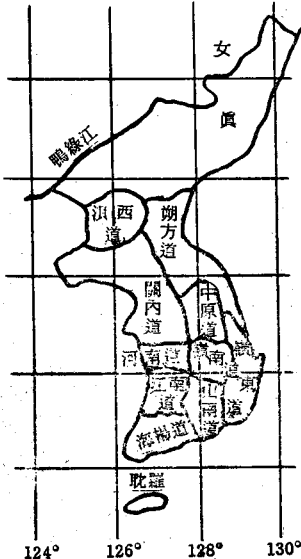
三韓位置圖



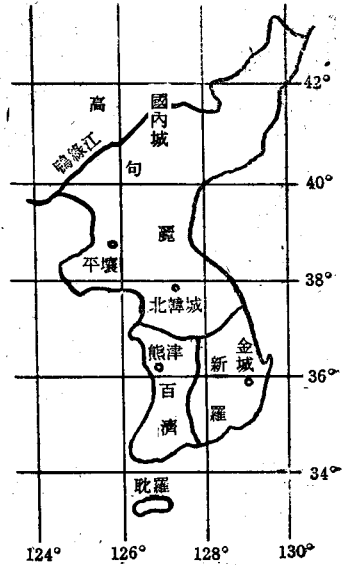
高麗五道兩界道



高麗十道圖



高句麗全盛時代



第2章 建置沿革

第1節 江原道 沿革

本道古濊貊之地屬後漢置臨屯郡分屬一部於樂浪郡後合爲高句麗新羅領地至高麗成宗十四年分十道時以和州溟州即嶺東一帶及今咸鏡南北道爲朔方道而以春川等郡縣屬之明宗八年改朔方道爲沿海溟州道分春川等郡縣始稱春川道或稱東州道元宗四年改沿海溟州道爲江陵道改東州道爲交州道忠肅王元年復道交州道爲淮陽道恭愍王五年遣樞密院副使柳仁雨攻破雙城回收領地改江陵道爲江陵朔方道十五年改稱江陵道禡王十四年始析江陵道於朔方道而合於交州道遂稱交州江陵道統管於江陵以忠州所管平昌郡來隸恭讓王三年割鐵原永平等縣移隸京畿道李朝太祖四年始稱江原道置監營于原州分左營於春川中營於橫城右營於三陟定宗元年以原州屬縣永春與忠州所管寧越犬牙相錯乃相換太宗十三年割加平朝宗兩縣隸京畿道以京畿道伊川來隸世宗十六年鐵原還隸領府一江陵牧一原州都護府五淮陽襄陽三陟春川鐵原郡七通川高城杆城平海旌善平昌寧越縣十二麟蹄楊口歙谷蔚珍橫城洪川華川金化金城平康伊川安峽顯宗七年江陵有良女朴玉只生理其父事見江陵罪犯綱常故改爲原襄道正宗六年以逆臣澤徵胎生於江陵故又改爲原春道越十年復稱江原道高宗二十五年置留守於春川三十二年廢原州監營改春川留守爲府使觀察府於江陵及春川移屬原州寧越平昌旌善四郡於忠州觀察府翌年復來屬廢二府置觀察道於春川純宗四年以歙谷合于通川併合後大正三年以平海合于蔚珍以高城合于杆城以金城合于金化以安峽合于伊川八年改杆城稱高城總二十一郡

第2節 原州郡 建置沿革

『本高句麗平原郡新羅文武王置北原小京高麗太祖二十三年改今名顯宗九年爲知州事高宗四十六年以州人逆命降爲一新縣元宗元年復知州事十年以林惟茂外鄉陞爲靖原都護府忠烈王十七年以禦丹兵有功改益興都護府三十四年陞原州牧忠宣王二年降爲成安府恭愍王二年安胎于州之雉岳山復爲原州牧本朝因之』(東國輿地勝覽卷之四十六)。

『본래 고구려 평원군이다. 신라의 문무왕은 복원소경을 두었고 고려 태조 23년에 지금의 이름으로 고쳤으며 현종 9년에는 지주사로 하였고 고종 46년에는 이 주의 사람이 왕명을 반역하였으므로 낮추어 일신현으로 하였다가 원종 원년에 다시 지주사로 하였으며 10년에는 임유무의 외가고을이라 하여 승격시켜 정원도호부로 하였다. 충렬왕 17년에는 글안의 군사를 방어하는데 공이 있었으므로 익흥도호부로 고쳤고 34년에는 승격시켜 원주목으로 하였다. 충선왕 2년에는 낮추어 성안부로 하고 공민왕 2년에는 주의 치악산에 태를 안치하고 다시 원주목으로 하였다. 본조에서는 그대로 두었으며 세조조에 진을 두었다.』이상은 국역 신증동국여지승람 46권에 번역된 것임. 좀더 알기쉽게 하기 위하여 역대와 연대 그리고 변천과정을 기입해 둔다.

第3節 신증동국여지승람 제 46권

원 주 목(原州牧)

동쪽은 평창군(平昌郡) 경계까지 1백 12리, 충청도 제천현(提川縣) 경계까지 52리, 남쪽은 충청도 충주(忠州) 경계까지 43리, 서쪽은 경기도 지평현(砥平縣) 경계까지 74리, 서남쪽은 경기도 여주(驪州) 경계까지 63리, 북쪽은 횡성현(橫城縣) 경계까지 30리이고, 서울과의 거리는 2백 82리이다.

건치연혁 · 본래 고구려의 평원군(平原郡)이다. 신라의 문무왕(文武王)은 북원소경(北原小京)을 두었고 고려 태조 23년에 지금의 이름으로 고쳤으며 현종(顯宗) 9년에는 지주사(知州事)로 하였고, 고종(高宗) 46년에는 이 주(州)의 사람이 왕명을 반역하였으므로 낮추어 일신현(一新縣)으로 하였다가 원종(元宗) 원년에 다시 지주사로 하였으며, 10년에는 임 유무(林惟茂)의 외가(外家)고 올이라 하여 승격시켜 정원도호부(靖原都護府)로 하였다. 충렬왕(忠烈王) 17년에는 글안(契丹)의 군사를 방어하는데 공(功)이 있었으므로 익흥도호부(益興都護府)로 고쳤고, 34년에는 승격시켜 원주목(原州牧)으로 하였다. 충선왕(忠宣王) 2년에는 낮추어 성안부(成安府)로 하고, 공민왕(恭愍王) 2년에는 주(州)의 치악산(雉岳山)에 태(胎)를 안치하고 다시 원주목으로 하였다. 본조(本朝)에서는 그대로 두었으며 세조조(世祖朝)에 진을 두었다.

◎ 속 현 · 주천현(酒泉縣) : 일명 학성(鶴城)이라 한다. 주(州)의 동쪽 90리에 있다. 본래 고구려의 주연현(淵原縣)이다. 신라 때 지금의 이름으로 고쳐서 내성군(奈城郡)의 영현(領縣)으로 하였다가 현종(顯宗) 9년에 원주(原州)의 속현(屬縣)이 되었으며 본조에서는 그대로 하였다.

◎ 진 관 · 도호부(都護府) 1 춘천(春川), 군(郡) 3 정선(旌善), 영월(寧越), 평창(平昌), 현(縣) 3 인제(麟蹄), 횡성(橫城), 홍천(洪川).

◎ 관 원 · 목사(牧使), 판관(判官), 교수(教授) : 각 1명씩.

◎ 군 명 · 평원(平原), 북원경(北原京), 일신(一新), 정원(靖原), 익흥(益興), 성안(成安), 평향경(平涼京).

◎ 성 씨 · 본주 원(元), 이(李), 안(安), 신(申), 김(金), 석(石), 변(邊) : 본관을 심양(瀋陽)으로 하사하였다. 최(崔) : 내(來), 조(趙) : 횡성(橫城), 주천(酒泉), 조(趙), 윤(尹), 노(盧), 왕(王) : 모두 내(來), 강(康) : 진주(晉州), 도곡(刀谷), 채(蔡), 윤(尹), 소탄(所呑), 지(池).

◎ 풍 속 · 축적(蓄積)하는 일을 숭상한다 : 지지(地志)에 있다.

◎ 형 승 · 동쪽에는 치악(雉岳)이 서리고 서쪽에는 섬강(蟾江)이 달린다. 천년고국(千年古國)이다 : 윤 자운(尹子雲)의 시에 “천년 옛 나라에는 교목(喬木)이 남아 있고, 십리 긴 강은 고을의 성(城)을 둘러싸다.” 하였다.

◎ 산 천 · 치악산(雉岳山) : 주의 동쪽 25리에 있는 진산(鎭山)이다. · 고려때에 진 보궐(陳補闕)이라는 사람이 치악산의 서쪽을 지나가는데 소나무와 전나무가 뽕뽕하게 들어서고 수석(水石)이 그윽하고 기이하였다. 마음으로 기뻐하여 동중(洞中)으로 들어가니 초가가 서너집 수풀 사이로 어렴풋이 있는데 한 늙은 중이 어린아이를 데리고 시냇가 돌에 앉아 있었다. 진 보궐이 말에서 내려 함께 이야기하였는데 중은 기상과 운치가 범상(凡常)하지 아니 하였다. 보니 한 지선(紙扇)을 가졌는데 다복한 소나무가 그려 있었다. 진(陳)이 부채를 가져다가 그 뒤에 글을 쓰기를, “노승(老僧)이 날마다 푸른 수염의 늙은이(소나무를 말한것)를 벗하는데, 어찌 다시 참모습을 옮기어 둥근 부채 속에 넣었는가.” 하니, 중이 즉시 화답하기를, “봄바람이 아미령(蛾眉嶺)에 이르지 아니 하진만, 땅 가득히 교룡(蛟龍)처럼 서리어 푸르른 덩이를 지었다네” 하였다. 거슬갑산(嵇瑟岬山) : 주천현(酒泉縣) 북쪽 30리에 있다. 백운산(白雲山) : 주의 동쪽 30리에 있다. 구릉산(仇陵山) : 주천현의 남쪽 10리에 있다. 서곡산(瑞谷山) : 주의 남쪽 20리에 있다. 현계산(玄溪山) : 주의 남쪽 60리에 있다. 명봉산(鳴鳳山) : 주의 남쪽 30리에 있다. 도야니현(都也尼峴) : 주의 남쪽 30리에 있다. 유현(紐峴) : 주의 동쪽 60리에 있는데 세 높고 험하다. 월퇴탄(月澗灘) : 주의 서쪽 25리에 있다. 근원이 횡성현(橫城縣) 봉부산(奉福山)에서 나와서 섬강(蟾江)으로 흘러 들어간다. 섬강 : 주의 서남쪽 50리에 있다. 즉 충청도 충주(忠州) 금천(金遷) 하류이다. 사천(沙川) : 주천현의 동쪽 22리에 있다. 근원이 강릉부(江陵府)의 월정산(月正山) *서쪽에서 나온다

第1編 總 論

공룡탄(公龍灘) : 주천현 남쪽 20리에 있는데 사천 하류이다. 배 건너는 나룻터가 있다.

동천(東川) : 주의 동쪽 1백 50보에 있다. 근원이 치악산(雉岳山)에서 나와 북쪽으로 흘러서 횡성현의 서천(西川)에 합류한다.

◎ 토 산·옥석(玉石) : 주의 서쪽 탑전곡(塔前谷)에서 난다. 영향(羚羊), 잣(海松子), 오미자(五味子), 자초(紫草), 석이버섯(石蓴), 인삼(人蔘), 꿀(蜂蜜), 누치(訥魚), 여항어(餘項魚), 쏘가리(錦鱗魚).

◎ 신증·궁실·객관(客館) : 서 거정(徐居正)의 증신기(重新記)에 원주(原州)는 본래 고구려의 평원군(平原郡)이다. 신라에서 북원소경(北原小京)을 두었으며 고려초에 주(州)를 두었다가 뒤에 낮추어 지주(知州)로 하였고 또 낮추어 일신현(一新縣)으로 하였다. 중간에 승격시켜 정원도호부(靖原都護府)로 하였다가 고쳐서 익흥(益興)으로 하였고, 공민왕조(恭愍王朝)에 다시 목(牧)으로 하였다. 예전에는 양광도(楊廣道)에 속하였으나 지금은 강원도의 계수관(界首官)이다. 땅은 넓고 백성은 많으며, 산천의 아름다움과 토지의 비옥함과 물산(物産)의 풍부함이 여러 고을 중에서 가장 뛰어나다. 그 풍속은 부지런하고 검소하며 쓰는 것을 절약하여 재물을 저축하고 물화(物貨)를 늘리니 홍수와 가뭄이 재해가 되지 못하니, 실로 동쪽 지방의 아름다운 고을이다. 거정(居正)이 젊었을 때에 치악(雉岳), 법천(法泉) 등 여러 산사(山寺)에서 글 읽느라고 원주를 왕래한 일이 한두번이 아니었다. 매번 보면 종류 이상의 집들이 힘써 집을 영조(營造)하여 마루와 넓은 집과 높은 누(樓)와 아름다운 정자가 간곳마다 수두룩하였다. 그런데 홀로 어찌하여 이와 같이 크고 부유한 고을로서 관아(官衙)의 건물은 누추하고 좁아서 초라함이 이와 같은가. 그것을 창건한 연대를 물으니, 원(元)나라 연우년간(延祐年間)에 지은 것이라고 하니 지금으로부터 계산하면 백 수십년(百數十年)이 된다. 그 동안 주의 수령된 자들이 이력저력(因循) 지나기를 좋아하여 수리하는데 힘쓸 겨를이 없었던 것이니, 이것이 주(州)의 큰 결점이었다. 성화(成化)경자년에 철성(鐵城)이 후(李侯)가 뽑히어 이 주의 목사로 왔다. 정사는 잘 다스려지고 폐단은 없어졌다. 통판(通判) 전성(全城)이 후(李侯)와 의론하고 다시 중수하는 것이 마땅하다는 뜻을 조정에 보고하여 허가를 얻었다. 재물을 모으고 기와를 구어 창자 경영을 시작하려 하니 감사권 윤(權綸)공도 또한 그 비용을 도와 주었으나, 매마침 시절이 좋지 못하여 착수하지 못하였는데 재묘된 봄에 좀 풍년이 들었으므로 일찍 공사를 일으켰다. 놀고 있는 자들을 고용하여 농민들을 번거롭게 하지 않았다. 곧 옛터에다가 그 제도를 더하고 넓혀서 먼저 대청 3칸을 세우니 앞뒤에 날개를 붙였고 동헌(東軒)도 또한 같게 하였다. 크고 트이고 넓고 시원하며 높고 빛난다. 옛날의 좁던 곳이 지금은 넓어졌고 이 해 여름 6월에 철성이 광주목사(廣州牧使)로 전근하고 상락(上洛) 김 후(金侯)가 대신 부임하였으며 이 통판(李通判)이 임기가 차서 소환되고 허 통판(許通判)이 후임으로 왔다. 공사를 마치지 못한 것은 양후(兩侯)가 더 잘 처리하였다. 어느 날에 철성(鐵城)이 나에게 기(記)를 쓰게 하였다. 내 들으니, 세상이 논평하기를 좋아하는 사람들이 다 말하기를, “관아(官衙) 건물이 수리되고 안된것은 수행의 어질고 어질치 않은데에 달린 것은 아니다”라고 한다. 그러나 이것은 그렇지 않다. 상고(上古) 시대에는 궁실(宮室)이 없었는데 성인(聖人)이 대장괘(大壯卦)에서 생각하여 처음으로 궁실을 경영하였으니, 더군다나 객관(客館)은 빈객(賓客)을 접대하며 관부(官府)를 위엄있게 하는 것이니 어찌 마음을 쓰지 않을 수 있겠는가. 내가 지금의 수령들을 보니, 그 중에 세상 사정에 어두운 사람과 작은일에 자질구레한 사람들은 비록 공문서의 처리에도 맘을 흘리면서 소매에 손을 넣은채 가(可)타 부(否)타 하지도 못하니 다시 그 밖에 무슨 일을 할 수 있겠는가, 간혹 현능(賢能)하다는 이름이 있는 자는 시세를 걸 눈질해 보면서 가만히 명성(名聲)만을 도둑질 한다. 관서(官署)를 왜 수리하지 않느냐고 물으면

곧 평계하여 말하기를, 나라의 금령(禁令)을 위반할 수 없으며, 백성의 힘을 고갈(枯渴)되게 할 수 없다 한다. 비록 길으로 염정(恬靜)함을 보이지만 속으로는 실로 이력저력 세월만 허송하고 있는 것이다. 맹가(孟軻)씨는 말하기를 “백성을 편안하게 하기 위한 방법으로써 백성을 사역(使役)한다면 백성들은 비록 수고롭더라도 원망하지 아니한다” 하였다. 진실로 도(道)에 합치한다면 무엇이 법에 두렵고 백성들에게 두려워할 것이 있겠는가. 그런데 그들의 하는 말이 이와 같으니 백성의 장관(長官)된 책임에 어떻게 하겠는가. 이제 이 목사와 이 통판이 다 자애롭고 착한 덕으로써 백성을 어루만지는 직책을 다하여 온 고을이 안정하였으니 그남은 은덕은 황폐하고 떨어진 것을 수리하고 거행하기에 넉넉하다. 또 김 목사와 허 통판이 또 능히 앞사람의 정사를 계승하여 확대하고 아름답게 꾸몄으니, 관부(官府)가 온통 새로워져서 보는 것을 고치고 듣는 것을 바꾸어 놓았다. 거정(居正)이 전일에 이 주(州)의 흠으로 생각하던 것은 어찌 네 분 군자(君子)를 기다리고 있었던 것이 아니겠는가, 네 분 군자의 재능과 덕(德)과 정사의 어짐이 전일의 수령들 보다 널리 뛰어난을 알 수 있다. 아! 성인(聖人)이 춘추(春秋)에서 토목사업을 일으킨 것을 반드시 기재한 것은 무슨 까닭인가. 백성의 일을 중(重)하게 여기기 때문인 것이다. 때는 흉년인데 공사가 과대하여 백성을 수고롭게 하고 여러 사람들을 동원한 것은 곧 꺾어서 말하고 재물을 손상시키지도 않고, 백성을 해치지 않은 것은 곧 포창(褒彰)해서 칭찬하였다. 이제 네분의 일은 「춘추」의 예(例)에서 본다면 마땅히 크게 쓰고 특별히 써서 찬미해야 하겠다. 거정은 벼슬이 사국(史局)의 장(長)의 자리를 더럽히고 있으면서 한마디 얻을 수 있겠는가. 철성(鐵城)의 휘는 지(熾)요, 자(字)는 승경(升卿)이다. 이 통판의 휘는 녹송(祿崇)이요, 상락(上洛)의 휘는 적(積)이며, 허 통판의 휘는 달(達)이니, 다 한 때의 명현(名賢)들이다, 라고 하였다.

◎ 누 정·봉 명루(奉命樓), 빙 허루(憑虛樓) : 모두 객관의 동쪽에 있다.

◎ 신 증·○ 강 회백(姜淮伯)의 시에, “높은 누에 홀로 올라 이번 걸음 유쾌한데, 소나무 산 험함에 가득히 그늘 지우네, 인정은 잊치락 잊치락 구름이 산으로 들어감 같고, 옛 뜻은 처량한데 눈(雪)이 성을 놀렸네. 강개(慷慨)한 마음 하루아침에 계획(計策)을 결정더니, 존망이 백년을 넘었건만 이름 아직도 남았네, 농사 짓고 누에 치고 간곳 마다 백성 생업(生業) 안정한데, 포곡새(布穀鳥)는 무슨 일로 발 갈기를 재촉하는고야” 하였다. ○ 우 승범(禹承範)의 시에 “말 들으니 원 공(元公(원충강))이 칼을 잡고 떠날때에, 장한마음 기유생(棄糲生)보다도 뛰어나네, 한번 휘둘러서 천년 외구(外寇)를 소탕하니 우뚝이 홀로 선 성(城)이 백지(百雉)의 성처럼 든든하다. 옛부터 고원(高遠)한 지세는 유적을 수호하고, 이제까지 물고기와 새들도 위명(威名)을 두려워 하네, 남아(男兒)의 사업은 이미 이같이 성대한데, 나는 항상 몸소 밭 가는 한사(寒士)임을 웃네” 하였다. ○ 허 종(許琮)의 시에 “백리를 피리와 노래속에서 취하여 가다가, 또 높은 누에 올라 일어나는 구름을 본다. 호중천지(壺中天地)에 만약 삼도(三島)가 열리지 않는다면, 세상에서 어찌 일찍 오성(五城)을 볼 수 있었으랴, 돌아오니 꽃과 새는 모두 아는 것 같은데, 얻기 어린 봉우리를 손가락질하며 산이름 묻노라, 혹시나 언덕 위에 수경(數頃)의 땅을 얻는다면, 한 늙은이 봄비 속에 몸소 밭 같이 하리라” 하였다. ○ 성 현(成僊)의 시에, “어려서 시서(詩書)를 배워 장성하여 행하고자 하였더니, 임금의 은혜 바다같이 취생(顛生)을 목욕하게 하였네, 외람하게 아기(牙旗)와 절(節)을 갖고 하합(河陟)을 순찰하였고, 무성(武城)에 자주 와서 현가(絃歌)를 들어보네, 당음(棠陰)에 선화(宣化)했으나 실지 혜택 없었으며 현판(縣板)에 시(詩)를 쓰니 헛된 이름 부끄럽다. 밭에서 신고(辛苦) 하는 늙은이께 묻거니와, 들 가(野耕)는 그대, 나의 설경(舌耕) 어떠 한가. 햇볕을 무릅쓰고 산짐고 물건닐 일 항상 근심했더니, 누(樓)에 오르니 지나치게 서늘바람 찬가워라, 두어 포기 작약은 붉은빛 섬들에 번득이고, 일탄줄 늘어진 버들은 푸

른 성(城)에 가득하구나, 첫머리 제비는 처마 곁에서 처음으로 말을 배우고, 피끌새는 나무를 뚫으면서 제이름 제가 부르네, 밭(簾) 가득한 성진 비에 남은 꿈 놀라 깨어 일어나 보니, 검정소(烏犍) 농경(農耕)에 달려가네” 하였다. ○홍 귀달(洪貴達)의 시에 “따뜻하고 경치고운 국도(國道)에 사람들은 어지러이 오고 가고, 눈 녹은 마을 마다 봄물이 생겼네. 산 기운(山氣)은 노을을 찌는 듯 그림병풍 돌렸고 경치는 물에 닿아 강가의 성을 옹호한다. 가볍고 날선한 처마의 제비는 때로 능히 말을 하고, 아름다운 담 위의 꽃은 이름조차 알지 못하겠다. 가장 기쁜 일은 농가에서 살아가는 일이 풍족하여 한 늙은이가 다시 비를 맞으며 밭을 가네, 이글이글 타는 듯한 여름해에 피로워 천천히 가는 길에, 짙은 나무 그늘이 물 밑에 나타나는 것을 보면 너무도 반가워라. 한 점 검은 구름이 먼 봉우리에 돌리니 잠깐동안 서늘한 비 외로운 성을 지나가네, 한가로워지니 잔 가운데의 술 맛이 나고 취한 뒤에는 종이에 기록될 이름 같은것 마음에 없다. 남춘곡(南薰曲) 타서 마치니 재물은 이미 넉넉하나, 다시 농관(農官)을 불러 백성의 농경(農耕)을 권장한다” 하였다. 청허루(淸虛樓) : 주천현(酒泉縣)의 객관 서쪽에 있다. 석벽(石壁)이 깎아 지른듯 한데 그 아래에 맑은 못이 있다. 판관 조명(趙銘)이 세운 것이다. ○김 예몽(金禮蒙)의 시에 “달은 맑은 그림자를 나누어서 누(樓)의 모서리에 걸렸고, 바람은 저녁 때의 서늘함을 도와서 물 위에서 온다” 하였다. 쌍수대(雙樹臺) : 객관 서쪽에 있다. 청음정(淸陰亭) : 객관 남쪽에 있다. ○이 선재(李先齊)의 시에 “밤잔 안개 처음 걷고 해가 뜨려 하는구나. 장미꽃 피어서 두루 섬돌에 비취 눈부시다. 난간에 의지하여 홀로 앉으니 다른 할 일 없는데, 어디선가 두세번 피꼬리 소리 들려오네” 하였다. 송화정(崇化亭) : 주(州)의 서쪽 2리쯤에 있다. ○이 숙함(李淑瑱)의 기(記)에 “나의 벗 자간(子幹) 민정(閔貞)군이 원주목사(原州牧使)로 나간지 해포되어서 나에게 편지를 보내어 말하기를, ‘원주는 관동지방의 계수(界首)이다. 치악(雉岳)의 한 자리(一趾)가 서쪽으로 잇달아 백여리를 달려 와서 주(州)의 진산이 되었으니, 모든 읍의 공관(公館)과 창고(倉庫)와 영각(鈴閣)이다. 여기에 자리잡았다. 진각(鎭閣)의 남쪽에 우뚝 솟은 땅이 있으니 평평하기는 바둑판 같고, 매우 시원하다. 두 면은 산을 등지고 있어서 소나무와 참나무가 뽕뽕하게 서 있고, 한 면은 앞에 강물을 굽어보며 초원과 평야가 넓고 편편하게 펼쳐져 있어 산뜻하며 티끌세상의 시끄러움을 격절하니 노닐고 휴식하는 곳으로 할만하다. 이에 그 위에 정자를 짓고 매양 관아(官衙)의 근무시간이 끝난 뒤에 지팡이 짚고 가서 정자위에 단정히 앉았노라면, 때로는 도포(道袍)를 입은 무리들이 책을 끼고 오는 자가 있어서 곧 제발(啓發)하여 시서(詩書)와 예악(禮樂)으로써 가르치고, 소장(訴狀)을 제출한 백성으로서 윤리에 어그러지는 자가 있으면 곧 사리를 밝혀서 타일러 설명하여 효도하고 우애하고 충신하는 길로 인도하니 이것은 다 정자가 주는 도움이다. 그런 까닭에 편액(扁額)을 송화(崇化)라고 하였으니 그때는 거기에 기(記)를 쓰라 하였다. 나는 그 편지를 다 읽고 나서 탄식하기를, ‘임금이 하늘과 땅 사이에 자리잡으시니 백성들이 지극히 많아서 홀로 다스릴 수가 없으므로 반드시 지방장관의 어진이를 얻어서 그 어루만지는 일을 맡기는 것이다. 장부가 세상에 태어나면 포부가 지극히 큰것이다. 재상이 되지 못한다면 반드시 백리 되는 큰 고을의 수령이 되어 그의 정교(政敎)를 시행하고자 하는 것이다. 그러나 그 정사하는 일은 교화(敎化)가 근본이고, 형벌과 법률은 말절(末節)인 것이니, 능히 근본과 말절을 구분할 줄 알아서 교화를 숭상하는 일로써 우선(優先)하는 것은 그 또한 어려운 것이다. 옛날 자유(子游)는 성인(聖人) 문하(門下)의 뛰어난 제자로서 무성(武城)의 수령이 되어 음악과 노래로써 다스려서 군자와 소인으로 하여금 다 도(道)를 배우게 하였으니, 그것은 교화를 숭상하는 일이었다. 그러나 자유는 때를 만나지 못하여 능히 큰 포부를 베풀지 못하고 교화가 아주 조그마한 고을에 그쳤을 뿐이었다. 그런 까닭에 우리 공부자(孔夫子)는 ‘답잡는네 무슨

조정은 칼을 쓴단 말인가, 하고 회통하였던 것이다. 이제 자간(子幹)은 성명(聖明)한 세상을 만나 장원급제에 뽑혀 옥당(玉堂)을 밟았으며 대각(臺閣)에 출입하였고. 성균사성(成均司成)을 역임하여 국자제(國子弟)들을 가르치었다. 조정에서 바야흐로 지방의 수령을 중하게 여기게 되니, 자간(子幹)이 유학(儒學)으로 행정하고 지방을 잘 다스리며 백성을 구제한 재능이 있음을 알고 특히 뽑아서 본주(本州)의 목사(牧使)로 삼았다. 자간이 수레에서 채 내리기도 전에 먼저 유교를 들고 나왔다. 먼저 벼 몇섬을 내어서 학름(學廩)을 만들고 또 그 관내의 여러 사람들에게 권유하여 등차가 있게 벼를 내놓게 하여 그 원본(元本)과 이식(利殖)을 저축하여 결핍되지 않게 하였다. 문서의 처리와 수렴(收斂)하는 일 이외에 깊이 주의하는 것은 교화(敎化)이어서, 또 곧 높은 성자를 세우고 시, 서, 예, 악(詩書禮樂)의 가르침과 효제(孝悌忠信)의 도(道)를 펴는 데 이용하니, 곧은 주내(州內)에 화기가 가득하게 되었다. 이것은 곧 교화를 숭상하기 위함이며 형(刑)이 없게 하기 위한 것이니, 풍광(風光)과 경치에 빠져 놀러다니기 위한 시설은 아닌 것이다. 다만 성상(聖上)의 포상(褒賞)함을 받아 조정에 들어가 큰 벼슬에 제수되면 크게 헌의(獻議)하는 바 있어서 도를 행할 수 있게 될 것이니, 장차 교화는 한 나라에 미치고 혜택은 만민에게 입혀질 것이니 어찌 특히 백터되는 고을에 그칠 뿐이겠는가, 그리 되면 무성(武城)과 같은 조그마한 고을은 정말 어린애 장난감을 뿐이다. 사관(史官)이 크게 특별히 써서 한(漢)나라의 순리(循吏)인 공수(龔遂), 황폐(黃霸)의 전기(傳記)를 이룰 것이 의심없을 것이다. 이것으로 기(記)를 하여 돌려 보내노라 하였다”한다. .

◎ 학 교·향교(鄕校) : 주의 서쪽 3리에 있으며, 청풍루(淸風樓)가 있다. 건문(建文) 4년에 목사 신 호(申浩)가 세우고 유 사눌(柳思訥)이 기(記)를 지었다.

◎ 역 원·단구역(丹丘驛) : 주의 동쪽 7리에 있다. 신림역(神林驛) : 주의 동쪽 45리에 있다. 안창역(安昌驛) : 주의 서쪽 45리에 있다. 유원역(由原驛) : 주의 북쪽 7리에 있다. 신흥역(神興驛) : 주의 동쪽 1백리에 있다. 아야니원(阿也尼院) : 주의 서쪽 38리에 있다. 송현원(松現院) : 주의 서쪽 60리에 있다. 둔탄원(屯呑院) : 주의 북쪽 38리에 있다. 요제원(要濟院) : 주의 북쪽 80리에 있다.

◎ 창 고·흥원창(興原倉) : 섬강(鎭江)의 북쪽 언덕에 있으니 주의 남쪽 30리에 있다. 본주(本州)와 평창(平昌), 영월(寧越), 정선(旌善), 횡성(橫城)등 고을 전세(田稅)와 세곡(稅穀)을 여기에 수납(收納)하여 조운(漕運)으로 서울에 가져갔다.

◎ 불 우·각림사(覺林寺) : 치악산의 동쪽에 있다. 이 태조(太祖)가 잠저(潛邸)에 있을 때에 여기에서 글을 읽었다. 뒤에 횡성에서 강무(講武)할 때에, 임금의 수레를 이 질에 멈추고 옛 늙은이들을 불러다 위로하였으며 절에 토지와 노비를 하사하고 주(州)의 관원에게 명령하여 조세, 부역 따위를 면제하여 구휼하게 하였다. ○변 계량(下季良)의 시(詩)에 “치악산이 동해자방에 이름이 높고, 이 산의 사찰(寺刹) 중에는 각림사가 가장 좋다. 구름, 연기, 바위, 동학(洞壑)이 몇 천년이 되었던가, 땅의 신령한 기운이 천룡(天龍)의 모임을 응위하였네” 하였다. 법천사(法泉寺) : 봉명산(鳳鳴山)에 있다. 고려때의 중 지광(智光)의 탑비(塔碑)가 있다. ○태재(泰齊)의 유 방선(柳方善)이 일찌기 이 절에서 학문을 강의하였는데 배우러 오는자가 먼곳으로 부터 모여들었다. 권 람(權鑒), 한 명희(韓明禧), 강 효문(康孝文), 서 거정(徐居正)같은 이들은 뒤에 다 큰 이름이 있었다. 그들이 여기에서 배울 때에 탑위에 시를 써놓은 것이 지금까지도 아직 남아있다. ○강 효문의 시에 “서울에서 일찌기 서로 약속하였더니 타향에서 다시 만났네, 찬바람은 옥각(屋角)에서 울고 쌓인눈은 산허리에 가득하구나, 급(笈)을 지고 배우러 오는길은 비록 멀지만 벽슬길에 오르는 길은 멀지않으니, 나는 서 유자(徐孺子)의 호기(豪氣)가 아이들 무리에 으뜸인 것을 사랑한다네” 하였다. ○서 거정(徐居正)의 시에, “지난 해에 글 읽던 곳, 광산(匡山)에 또 불

음을 입었네, 행장은 달등에 여윌었는데, 서적은 소허리에 가득히 실었네, 전곤은 넓고 넓은 데 도로는 멀고 멀다. 영웅이 제회(際會)와 지우(知遇)를 만나게 될 자는, 필경 우리들의 무리 중에 있을 것이다” 하였다. ○유 윤겸(柳允謙)의 시에, 안담(雁塔)에 이름을 쓰는 것은 옛날부터 전하는데 제군(諸君)에게 붙이기에는 어질지 못한 것이 부끄럽구나, 지금도 두려워하는 것은 비로 인하여 이끼가 올라서, 그것을 손으로 어루만져도 당년(當年)의 그것을 알아보지 못하게 되거나 앓을런지” 하였다. 동화사(桐華寺): 도야니현(都也尼峴)에 있다. 흥법사(興法寺): 건등산(建登山)에 있다. 절에 비(碑)가 있는데 고려태조(高麗太祖)가 친히 그 글을 짓고 최 광운(崔光胤)에게 명령하여 당태종(唐太宗)의 글씨를 모아서 모사(模寫)하여 새겼다. 이 제현(李齊賢)이 일찍이 말하기를 “말 뜻이 웅장하고, 깊고, 위대하고, 고와서 마치 검은 흙과 붉은 신으로 남묘(鄭廟)에서 음양(揆讓)하는 것 같고, 글자는 큰 글자와 작은 글자, 해서(楷書)와 행서(行書)가 서로 섞여있다. 마치 난봉(鸞鳳)이 일렁이듯 기운이 우주를 삼켰으니 진실로 천하의 보물이다” 하였다. 거둔사(居頓寺): 현계산(玄溪山)에 있다. 고려 최 충(崔冲)이 찬술한 중 승묘(勝妙)의 비가 있다. 문수사(文殊寺): 치악산의 서쪽 골에 있다. ○서거정이 임지로 가는 민 정(閔貞)을 보내는 시(詩)에 “치악산(雉岳山) 속의 글 읽던 절, 젊을 때 노닐던 지난 때의 일 역력히 기억나네, 법천사(法泉寺)의 뜰아래에서는 탑(塔)에 시를 써 놓았고, 흥법사의 대(臺)앞에는 먹으로 비를 탁본하였지, 그때의 행장은 나귀 한 바리에 실을만한 것도 못되더니, 지금은 돌아가는 길을 꿈이 먼저 아는구나, 머리가 회어지도록 다시 놀러 가려는 흥(興)을 이루지 못하였으니 그때를 보내는 마당에 멀리 나의 생각을 흔들어 놓는구려” 하였다.

◎ 사 묘·사직단: 주의 서쪽에 있다. 문묘: 향교에 있다. 성황사(城隍祠): 주의 남쪽 2리에 있다 치악산사(雉岳山祠): 산정(山頂)에 있다. 세상에서는 보문당(普門堂)이라고 일컫는다. 봄 가을로 향과 축문을 내리어 치제(致祭)한다. 거슬갑사(琺瑟岬祠): 산 북쪽 사자동(師子洞)에 있다. 여단: 주의 북쪽에 있다.

◎ 고 적·주천석(酒泉石): 주천현(酒泉縣)의 남쪽 길가에 돌이 있으니 형상이 반 깨어진 돌 술통 같다. 세상에서 전해 오는 말에 “이 돌 술통은 예전에는 서천(西川)가에 있었는데 거기에 가서 마시는 자에게는 넉넉하지 않은 적이 없었다. 읍(邑)의 아전이 술마시려고 거기까지 왕래하는 것을 싫어하여 현(縣)안에 옮겨다 놓고자하여 여러사람들과 함께 옮기니, 갑자기 크게 우뢰하고 돌에 벼락을 쳐서 부수어 세 개로하여 한 개는 못(淵)에 잠기고, 한 개는 있는 데를 알 수 없고 한 개는 곧 이 돌이라” 한다. ○강 희맹(姜希孟)의 시에. “별(星)은 술(酒)로써 하늘에 이름이 있고, 땅의 신령(神靈)은 액체(液體)를 빚어서 샘물에 흘러 보냈다 한다. 몽매한 풍속이 어찌 다 헛말임을 알겠는가, 기괴한 이야기가 되어 지금까지 유전(流傳)한다네, 원성부곡(原城部曲): 옛 고을 서쪽에, 깎아 세운듯한 높은 봉우리 우뚝 솟아 창연(蒼然)히 섰네, 벼랑 아래에는 풀이 깊고 탐아서 굵어보면 검푸른데, 돌 술통이 부서져 강가에 가로놓였네, 사람들이 말하기를, ‘술통이 높은 벼랑위에 있을 때에는 맑은 술도 탁주도 저절로 솟아오르고 술값은 말하지 않았다네, 친종(鍾)을 마시면 요(藥)가 되고 백팩(斛)을 마시면 공자(孔子)가 된다 하더니, 옥산(玉山)이 봄바람 앞에 스스로 도피되었네, 하늘이 만든 뜻은 자연에 맞게 하는 데에 있는 것인데, 어떤 사람이 억지로 마을 가운데로 옮기고자 하였던가, 여러 신령들 성내어 신물(神物)에게 시켜서 술통 돌을 깨어내어 깊은 못에 돌리었다네, 신령한 물결은 비록 고갈하였으나 돌은 오히려 완강(頑強)하여 이제까지 남긴 흔적이 큰 내 물가에 있다. 나는 이 말을 듣고 믿기도 하고 의심하기도 하나 못에 가보면 혹시라도 이무기(蛟)가 침을 흘릴까 두려웠다. 나는 물결을 고통시켜 맑고 서늘한 원천(源泉)에 거슬러 올라가서, 옛날 그때처럼 벽력(霹靂)을 두드려 일으

키고 도중에 있는 한 조각 돌을 합해 가져다가 모두다 물나라에 던져서 이 적선(李麟仙)에게 바치고자 하노라” 하였다. ○ 성 임(成任)의 시(詩)에 “이것이 무희씨(無懷氏)가 아니면 갈천씨(葛天氏)일 것이다. 술이 있다. 술이 있어 샘물처럼 흘렀다네, 똑똑 물방울처럼 떨어져 바윗돌 사이로 흘러들어 떨어져 가는가 하였더니 어느사이에 첩첩 넘쳐서 이미 통술을 향하여 전해졌네, 술 빛는 것이 누룩의 힘을 의지한 것이 아니고 지극한 맛을 탄(和)것도 없이 자연 그대로라네. 한 번 마시면 정신의 혈요(沈寥)한 위에 노니는 것 같고, 두 번 마시면 꿈이 봉래산(蓬萊山)의 빈터에 이르게 된다. 줄줄 흘러 써도 써도 마르지 않으니, 다만 마시고 취하는데 수응(隨應)할 뿐, 어찌 값을 말하였으랴, 당시에 고을 이름 붙인 것은 뜻이 있는 것이었다. 그 렵 렵(赫赫)한 신령(靈) 진정 전에는 없었던 일, 마침내 산속의 귀신들이 아쳐서 갑자기 우뢰와 폭우로 한밤중에 옮겨 버렸네. 옥검(玉檢)을 위하여 깊은 동학(洞壑)에 폐쇄한 것이 아니면 반드시 금단지에 저축하여 깊디깊은 못에 감춘 것이리라. 감감하고 비어서 남긴 자취 다시 볼 수 없게 된다. 오직 끊어진 물조각이 길가에 가로놓였네, 내 하늘을 되돌려 옛날 샘의 맥(脈)을 돌려 놓고자 하거니와 세상 사람들로 하여금 군침 흘리지 말게 하라. 내가 원하는 것은 반도(蟠桃)를 안주 삼아 밝으신 임금께 바치고, 한 잔을 올리면 천년의 수(壽)에 상당하리니, 일만 잔 올리다면 다시 만만세(萬萬歲)를 기약하리니, 길이 법궁(法宮)에 남시어 못신선과 만나소서” 하였다. 영원성(鰲原城) : 치악산의 남쪽 등성마루에 있다. 돌로 쌓았으며 둘레가 3천 7백 49척이다. 안에 우물 하나 샘물 다섯이 있으나 지금은 폐지하였다. 삼국사(三國史)에 “궁예(弓裔)가 북원(北原)의 적(賊) 양길(梁吉)에게 가 붙으니 양길이 일을 맡기고, 동쪽으로 땅을 침략하게 하였다. 이에 궁예가 치악산의 석남사(石南寺)에 나와 유숙하고 다니면서 주천(酒泉), 내성 울도(奈城鬱島), 어진(御珍)등의 고을을 습격하여 다 항복하게 하였다” 한다. 세상에 전하기를, “이 성(城)은 양길의 우거하던 곳으로서 뒤에 원 충갑(元冲甲)이 여기에 웅거하여 글안의 군사를 깨뜨렸다” 한다. 천왕사(天王寺) : 주의 동쪽 2리쯤에 있다. 지금은 폐지하고 사청(射廳)이 되었다. 금대성(金臺城) : 주의 동쪽 30리 치악산(雉岳山)중턱에 있다. 돌로 쌓았으며 둘레가 6천 60척이다. 안에 우물 3개소가 있었으나 지금은 폐지하였다. 주(州)의 사람 송 필이 이 성에 의거하여 배반하였기 때문에 주를 낮추어 일신현(一新縣)으로 하였다. 소탄소(所呑所) : 주의 동쪽 13리에 있다. 금마곡소(金馬谷所) : 주천현(酒泉縣)의 남쪽 15리에 있다. 사림소(射林所) : 주의 동쪽 45리에 있다. 도곡부곡(刀谷部曲) : 주천현의 동쪽 20리에 있다. 도내부곡(刀乃部曲) : 주천현의 서쪽 5리에 있다.

명환·고려·김 부일(金富僞) : 숙종조(肅宗朝)에 이 고을 수령으로 있었는데 명성과 치적(治績)이 있었다. 홍간(洪侃) : 주의 수령이 되었었다. 조신(曹愼) : 판흥원창(判興原倉)으로 있을 때 글안(契丹)의 적병이 침구(侵寇)하여 왔으므로 원 충갑과 더불어 힘을 같이하여 방어하였다. 신이 복채를 잡고 북을 치고 있었는데 화살이 그의 오른쪽 어깨를 뚫었다. 그러나 북소리는 조금도 약(弱)하여 지지 않았다. 적(賊)의 앞줄(前行)이 조금 패하여 달아나니 뒤에 있는 자들이 놀라고 요동하여 저희들끼리 서로 짓밟고 부딪치고 하였다. 주의 군사가 이 틈을 타서 높은 곳에서 쳐서 무너뜨리니 소리가 산악을 진동시켰으며 쓰러져 죽은 시체가 골짜기에 가득하였다고 한다. 설장수(偃長壽) : 목사(牧使)가 되었다. 하윤원(河允源) : 임기가 만료되어 소환되니, 치악산의 중(僧) 운감(云鑑)이 시(詩)를 지어 주기를 “어린애가 즐거워하며 어머니의 곁에 있을 때에는 어머니의 은혜와 사랑을 미처 알지 못하더니 어머니가 가니 어린애는 울부짖는다. 추위와 굶주림이 몸에 다가옴을 어찌하리요. 북원(北原)의 지난날 정치는 어질고 덕(德)있음이 곧 이와 같았네. 빛나도다 몇 천년 지난 뒷세상에서, 다시 소남(召南)의 시(詩)같은 송가(頌歌)를 부르네” 하였다. 진신(鎭紳)들이 운자(韻字)를 나누어 시를 짓는데 이 구(李玖)는 아래하자(下字)를 운

자로 얻었다. 그의 시에 이르기를, “여산(廬山)의 혜원(惠遠)이 도연명(陶淵明)을 사랑하여 한가하게 동림(東林)을 향하여 일찌기 결사(結社)하였었네, 사귀는 도리가 도리어 세상의 도의를 따라 쇠퇴하니, 그 뒤로는 선비와 중이 서로 추종함이 적어졌다. 운감스님이 옛것을 좋아하나 지기지우(知己之友) 적어서, 원성(原城)의 외로운 절에 홀로 누웠었네. 글 잘하는 태수가 왔다는 것 기뻐하고 석장(錫杖)을 날려 밝은 달 아래에서 문을 두드렸네, 함께 강루(江樓)에도 오르고 절의 누에도 오르면서, 넉넉히 시와 술을 갖고 한가하고 밝은 정취 배불렀다. 태수의 임기는 차(滿)고 정치는 호못하여 조정으로 떠나가니, 원숭이와 학(鶴)있는 산언덕에서 스님은 누구와 더불어 밤을 보낼까. 바람편에 시를 부치어 고을에 남긴 사랑을 청송하니, 밝은 시사(詩詞)와 아름다운 정사가 고가(高價)함을 다투네, 내 이 시를 보고 머리를 돌려 이 사람을 생각하노니, 치악산 그윽하니 거마가 멀구나, 벼슬을 그만 두고 내 가서 그와 추종하고자 하나, 갈포(葛布) 두건(頭巾)과 들사람의 옷을 누구에게서 빌릴 수 있겠는가” 하였다.

◎ 본 조·전 흥(田興) : 판주목(判州牧)을 지냈다. 성질이 남을 불쌍히 여기며 용서하기를 좋아하였다. 사람을 때리는 형벌을 집행할 때마다 스스로 감시하는 자리를 만들고 태(笞) 한 개도 함부로 치지 못하게 하였다. 민 정(閔貞) : 목사가 되었다.

◎ 인 물·고려·김 거공(金巨公) : 성질이 청렴하고 근신(謹愼)하였다. 서리(胥吏)로 부터 몸을 일으켜 벼슬이 지문하성사 호부상서(知門下省事戶部尙書)에 이르렀다. 원 충갑(元仲甲) : 몸은 작고 키는 짧으며 민첩하고 사나웠으며 눈에 번개같은 광채가 있었다. 능히 어려운 일을 당하면 몸을 잊을 수 있었다. 향공진사(鄉貢進士)로서. 본주의 별초(別抄)부대에 예속하여 있었다. 충렬왕(忠烈王)때에 원나라의 반적(叛賊) 합단(哈丹)이 와서 성 아래에 주둔하고 온갖 계책을 써서 침공하니 성이 거의 함락되게 되었다. 충갑이 주의 사람들과 더불어 이것을 방어하여 적의 거의 반이나 쏘아 죽였다. 이로부터 적은 예기가 꺾이어서 감히 여러 성들을 공략하지 못하였다. ○정 필(鄭鵬)의 시에, ‘성난 범이 우뢰같이 으르렁거리 땅을 진동시키며 가는 것을, 북원(北原)에서 막아 끊으니 만민이 살았네. 으뜸되는 전공(戰功)은 홀로 삼분(三分)된 나라에서 뛰어나고, 장한 기운은 아직도 오히려 백번 싸우던 옛 성에 서려있다. 사신(史臣)에게 보고하여 뒷세상에 하게 하고 이미 도호부(都護府)라는 새 이름으로 바꾸었네. 발과 들을 둘러보고 도리어 탄식을 일으키노니 다만 무에만 힘쓰고 농경은 일삼지 않았네’하였다. 설 장수(愼長壽)의 시에 우뢰가 소리치고 바람이 날리듯 호령이 행하여지니 고을의 백성들이 힘입어 여생을 보전할 수 있었네, 영웅스런 위엄은 홀로 천 사람의 군진(軍陣)을 쓸어 버렸고, 뛰어난 계책은 능히 백雉(百雉)되는 성을 보전하게 하였네. 세 길(丈) 누른빛 깃발로 기묘한 전략을 베풀어서 만년 청사(靑史)에 홀로 아름다운 이름이 전하네. 지금에 이르기까지 은택(恩澤)이 향리에 남아서 언덕과 구렁의 빈밭도 다 개간하여 경작한다네” 하였다. ○김 도(金濤)의 시에 “조차 살아(生) 갈수 있었네, 평안한 저녁 불빛은 높은 언덕에 밝고 난만한 봄꽃은 작은 성에 가득하구나, 무지개가 동남에 뻗치니 장한 기운이 남아 있는 듯, 강물은 고금(古今)에 흐르는데 끼친 이름이 있네. 높고 먼 인물을 누가 능히 따르려나, 들으니 변방에서는 땅을 갈지 못 한다는네” 하였다. ○조 준(趙浚)의 시에 “철관(鐵關)에 오랑캐의 말(馬)이 바람처럼 달려가더니, 백면(白面)의 젊은 이가 한 칼로 전공을 높이 세웠네, 나라에 바친 외로운 충성은 마땅히 해(日)를 제를을 것이요. 몸을 버린 대의(大義)는 문득 만리장성 같구나, 지금에 이르기까지 부로(父老)들은 남기신 은택을 입고, 뒷 세상의 영웅들은 그의 큰 이름에 고개 숙인다. 나도 또한 난리 평정하여 입금계 아뢰 뒤에는, 살구꽃 피는 봄비와 같이 발갈까 하노라” 하였다. 원 부(元傅) : 벼슬이 중찬(中贊)에 이르렀다. 일찌기 퇴직하여 집에서 밤을 먹고 있었는데 문생(門生) 4,5명이 와서 뵈었다. 앉으라 하고 같이 말하기를

“내가 외람되게 균형(鈞衡)의 수반(首班)이 되어서 재주가 뜻에 미치지 못한다. 세상의 여론이 어떠하냐”하니 방 우선(方于宣)이라는 자가 대답하기를 “사람들이 말하기를 공(公)께서 다스리는 것이 그 성(姓) 원(元)과 같다고 합니다” 하였다. 원부가 크게 웃고 말하기를, “나는 내 성을 본받아서 돌아서 여기에 이르렀다마는 너는 네성 방(方)을 본받는다면 장차 어느 곳에서 그치겠느냐” 하였다. 원 충(元忠) : 원부의 손자이다. 충선왕(忠宣王) 때 사람이니 벼슬이 응양상호군(鷹揚上護軍)에 이르렀다. 원 선지(元善之) : 원 부의 손자이다. 벼슬이 진급(累進)하여 동지밀직사사(同知密直司事)에 이르렀다. 그때에 충선왕은 토번(吐蕃)으로 귀양가고 충숙왕(忠肅王)은 원(元)나라에 머물러 있었으므로 나라 사람들 중에 유언(流言)에 영합(迎合)하는 자가 많았으나 원 선지는 바른 바를 지키고 동요하지 아니 하였다. 원 송수(元松壽) : 원 선지의 아들이다. 급제하여 벼슬이 정당문학(政堂文學)에 이르렀으며 재상다운 그릇이 있었다. 인사전선(人事銓選) 직무에 참여한 것이 8년이나 되었는데 삼가 사람의 명망과 기국(器局)을 존중히 하고, 조금도 사(私)를 행하지 아니하였다. 신 돈(辛旽)의 뜻에 거슬려서 파면되니 근심하고 분하게 여겨 병이 나서 죽었다.

◎ 본 조·원 효연(元孝然) : 급제하였으며 세조조(世祖朝)의 좌익공신(佐翼功臣)이었다. 벼슬이 예조판서에 이르고 원성군(原城君)에 봉하였으며, 시호(諡號)는 문정(文靖)이다.

◎ 효자·고려·원 종량(元宗亮) : 충갑(神甲)의 증손인데 본도의 안렴사(按廉使)를 지냈다. 아버지의 상사를 만나 3년을 여묘(廬墓)하니, 일이 조정에 알려져서 정려(旌閭)하였다.

◎ 열녀·본조·조 씨(趙氏) : 생원 조 중량(曹仲良)의 아내이다. 남편이 병으로 죽자 끝까지 안고 울며 굶어죽으니 일이 조정에 알려져서 정려하였다.

◎ 제 영·한 수(韓榘)의 시(詩)에, “치악의 구름길 봉우리가 비를 오게하니 처마에서 떨어지는 소리 쓸쓸한데 저녁바람이 인다. 이미 맑은 경치가 현포(玄圃)로 옮겨 가는것 같음을 즐겨하거니와 다시 아름다운 사람이 부르는 위성곡(渭城曲)을 듣는다. 노는 사람이 머뭇거림은 옛일을 생각함이 많기 때문인가, 영웅(英雄)은 이제 적막하지만 높은 이름은 남았구나. 말굽이 이르렀던 곳, 간곳마다 거칠어 잡초만 우거짐을 슬퍼했더니, 이 고을 안은 홀로 개천 언덕에 골고루 경작되었네” 하였다. 꽃은 방탕한 손(客)을 어여쁘게 여겨 오히려 웃음을 머금고, 새는 노니는 사람을 그리워하여 이름을 부를줄 안다. 태종(太宗)이 순수(巡狩)하던 그 옛날을 추앙하노니 이제까지 그 기름진 은택에 온 고을이 농경하고 있네” 하였다. 강 효문(康孝文)의 시에 “산중(山中)의 늙은 나무 누가 그 나이를 알까, 언덕 위의 한가로운 꽃들은 이름을 모르더라” 하였다. 서 거정(徐居正)의 시에, “치악산은 푸른 봉우리를 모아서 조령에 이었고, 섬강(巖江)은 흰빛을 끌어서 여성(驪城)에 닿았네” 하였다.

◎ 연 혁·숙종(肅宗) 9년 현으로 강등시켰다 : 지아비를 죽인 살인자가 있었기 때문이었다. 18년에 다시 승격시켰다가 영종 4년에 현으로 강등시켰다. 역적이 태어난 곳이기 때문이다. 13년에 다시 승격시켰다.

◎ 방 면·본부면(本部面) : 처음은 1리 끝은 10리다. 호매곡(好梅谷) : 북쪽으로 처음은 15리 끝은 40리다, 소초(素草) : 동북쪽으로 처음은 25리 끝은 80리다, 고모곡(古毛谷) : 서북쪽으로 처음은 25리 끝은 80리다. 정지안(正之安) : 서쪽으로 처음은 20리 끝은 40리다, 지향곡(地尙谷) : 서쪽으로 처음은 20리, 끝은 50리다. 지내(池內) : 서쪽으로 처음은 60리 끝은 80리다. 강천(江川) : 서남쪽으로 처음은 50리, 끝은 70리다. 부론(富論) : 서남으로 처음은 60리 끝은 80리 굴파(屈坡) : 처음은 30리 끝은 60리, 미내(彌乃) : 서쪽으로 처음은 30리 끝은 55리, 사제촌(沙堤村) : 서쪽으로 처음은 15리 끝은 50리, 저전동(楮田洞) : 북으로 처음은 1리 끝은 15리, 금물산(今勿山) : 남

第1編 總 論

으로 처음은 15리 끝은 25리, 가리파(加里坡) : 동남쪽으로 처음은 30리 끝은 60리, 우변(右邊) : 동으로 처음은 70리, 끝은 1백리 좌변(左邊) : 동으로 처음은 1백리 끝은 1백40리 사근사(沙斤寺) : 동으로 처음은 1리 끝은 30리, 원의동(遠矣洞) : 동으로 처음은 60리 끝은 1백리 판제(板梯) : 남으로 처음은 1리 끝은 1백15리다.

창 고·흥원창(興原倉) : 서남으로 70리에 있는데 섬강(蟾江) 북쪽 언덕이다. 예전에는 원주(原州), 영월(寧越), 평창(平昌), 정선(旌善), 횡선(橫善)의 전세(田稅)를 모아서 서울로 옮겼다. 지금은 없어지고 단지 원주의 전세만 모은다. ○고려 때 12조창(漕倉)을 두었는데 그 가운데 하나였다. 평저선(平底船)이 21척인데, 1척에 2백석을 싣는다. 주천창(酒泉倉) : 옛 현에 있다. 별창(別倉) : 서쪽으로 40리에 있다. 사창(司倉), 영창(營倉), 둔창(屯倉), 군기고(軍器庫), 영고(營庫), 보영고(補營庫), 군수고(軍需庫)는 모두 읍내(邑內)에 있다. 평원군(平原郡)의 은섭포(銀蟾浦) 앞을 섬구포(蟾口浦)라 부르는데 고려 때 포창(浦倉)을 두었다.

◎ 진 도·안창진(安昌津) : 겨울에는 다리를 놓고 여름에는 배를 둔다. 흥원진(興原津) : 여주(驪州)로 통한다. 주천진(酒泉津), 사천진(沙川津) : 동쪽으로 1백 5리에 있는데, 모두 평창(平昌)으로 통한다.

◎ 토 산·삼[麻], 복령(茯苓), 송이[松茸].

◎ 누 정·청음정(淸陰亭) : 읍내에 있다. 청허루(淸虛樓) : 주천(酒泉)에 있다. 귀석정(龜石亭) : 동쪽으로 2리에 있다.

第4節 郷土 通史 概觀

太白山脈의 한 支脈이 뻗어 다시 車嶺山脈을 이루고 여기서 雉岳山과 白雲山이 南과 北으로 가로질러 盆地를 이루어 平原을 이룩하고, 그 背景에는 兩大山의 終脈이 西北으로 합쳤으나 太古의 岩壁으로 이루어진 水口門의 固守로 鳳川의 兩岸에는 5大坪을 이루었으니 여기가 原州다. 東은 막히고 橫城 泰岐山과 雉岳山 北端間에서 始流하는 蟾江이 擁圍하며 南漢江으로 合流한다. 雉岳山은 東北에, 白雲山은 東南에 있어 兩大山에서 흘러내리는 물이 모여 鳳川이 되었으며, 東出西流하는 鳳川은 原州 市街地를 半으로 갈라 놓았다. 水口門은 現 原城郡 好楮面 珠山里가 된다. 여기에는 白雲山의 終脈과 雉岳山의 終脈이 合勢하려는 樣相을 이루고 있다. 原州川은 이 氣勢를 막기나 하는듯 차고 나간다. 이곳을 原州의 水口門이라 이른다. 이와 같은 地形的 條件에 있는 原州는 高句麗 時代에는 平原郡이라 하였고, 新羅時代에는 北原小京을 두었던 곳이며, 高麗에 와서 처음으로 原州라 했다. 그후 一新, 靖原, 益興, 成安, 平凉京, 鶴城, 原城, 原州 등 地名이 바뀌며 따라서 格도 오르내리기를 數없이 하였다. 李朝末頃에는 現江原道廳格인 江原監營을 두었던 곳으로 지금도 그 當時의 建物이 市內 中心에 남아 있다. 宣威樓와 宣化堂 그리고 4百餘年을 자랑하는 槐木 한 그루가 丹邱의 洪判書 古家를 지켜보고 있으며 鳳川을 드나들었다던 帆船은 자취를 감춘지 오래 된다. 丹邱坪, 舟村坪, 牛山坪은 住宅街가 되었고, 農耕地로 有名했던 玉坪 또한 原州 五大市場中의 第一 큰 中央市場과 自由市場이 자리잡고 商船이 艇舳하던 艇舳坪에는 鐵馬(汽車)가 停止하는 驛이 되었다. 다시 한번 이르노니 原州는 東쪽에 雉岳의 主峰인 飛爐峰이 가로막고 그 南쪽에는 白雲山의 靈峰이 峨峨히 솟아 있으며 北에서 西로는 蟾江의 물결이 悠悠히 흐른다. 이와 같이 原州를 象徵하는 山은 亦是 雉岳이요 물은 蟾江이 主流라 하리라. 原州하면 雉岳이요 雉岳하면 蟾江을 연상하게 된다. 그러기에 江原觀察使로 原州에 왔던 松江鄭澈이 「蟾江은 어디메뇨 雉岳은 여기로다」라고 關東別曲에서 雉岳을 보고 蟾江을 찾은 것이

아닐까?

原州는 兵馬의 高장으로 일컬어 온다. 江原道內에서 原州, 江陵, 春川등 세 고을을 鼎立시켜 春川을 물의 高장 즉 湖水의 都市라고 한다면, 江陵은 風流의 高장 文鄉이라 이를 것이요, 原州는 兵馬의 고을 軍都라 이룰만 한 곳이다. 아득한 옛 이야기는 고사한다 하더라도 眞聖女王때에 나라가 어지러워지자 梁吉이 忠州에서 兵을 이르켜 忠州 隣近 30餘城을 뺏느라고 戰塵을 이르켰던 山河가 바로 이곳 原州요, 梁吉의 部將으로 있던 弓裔가 勢力이 커지자 梁吉을 꺾으려고 불꽃을 튀기던 그 本據地도 原州다. 文幕의 建登山은 王建이 나라를 세우기 전 弓裔의 휘하에 있을 때 後百濟의 甄萱와 對陣하여 싸우던 싸움터로서 그 西쪽에 있는 甄萱城의 城址도 王建과 싸우기 爲하여 건 흰이 쌓은 城이다. 이와 같이 이곳 原州의 山河는 天下를 號令하려던 雄志를 품은 豪傑들이 精氣를 풍기던 곳이요, 다시 내려와서 元 冲甲이 哈丹의 무리를 무찔러 敵의 銳鋒을 꺾으므로서 鵠原山城을 固守하였다. 그후 公의 功勲을 길이 기리기 위하여 鄭弼은 다음과 같은 詩를 남겨 놓았다.

× × ×

怨虎雷鳴動地行 北原遮斷萬民生

譯: 지축을 흔들던 성난 호랑이

북원땅의 백성을 살려냈다.

× × ×

또 僕 長壽의 詩에서는

雷勵風飛號令行 州民聊得保餘生

雄威獨掃千人陣 長策能全百雉城

譯: 우뢰같은 호령을 바람에 날려

백성을 위기에서 구해내다

무서운 위풍으로 적진을 휩쓸어

기리 백치성을 지키어 내다.

이와 같이 哈丹賊을 막아낸 元 冲甲이 있어 原州를 지켰고 다시 壬辰倭亂 때에는 原州牧使 金梯甲이 鵠原城을 固守하려다가 戰死하였고 公의 婦人 李氏 또한 같은 곳에서 男便을 따라 自決하였고 그의 二男 時伯이 兩親의 屍身을 지키다 敵彈에 맞아 죽었으니 다시 없는 忠과 烈과 孝의 嚆矢로서 原州史의 빛나는 한 대목을 이루었으며, 또한 元 愼將軍과 같은 勇將을 낸 곳도 이곳 原州로서 將軍이 묻혀 있는 곳이 原城郡 地正面 茂長里이다. 그 뿐이라 李朝 中葉의 名將인 林慶業將軍도 이곳 富論面 蓀谷里 胎生이고 丙子胡亂 當時 人質로 끌려간 王子를 따라 異域에서 그를 보살핀 將帥 李大樹도 이곳 사람이다. 도끼 政丞으로 알려진 元 斗杓도, 그리고 倭賊에게 쫓기던 宣祖大王을 등에 업고 淸川江을 건너 李應淳, 李應寅 兄弟 또한 原州 사람이다.

韓末에 와서 日帝가 國權을 짓밟자 原州에서 義兵을 이르켜 서울 東大門 밖까지 進擊한 李殷讚 같은 鬪士나 原州鎮衛隊 特務正校 閔肯鎬같은 사람도 亦是 義兵蜂起에 앞장 서서 江原道一帶의 日本守備隊를 追擊하다 戰死한 것 등으로 보면 原州는 軍都며 兵馬의 高장으로서 그 面貌가 躍如한 바 있다.

다시 近世에 와서 지난 6.25動亂 때에도 硝煙에 잠겼던 山河요, 또한 野戰軍의 總帥가 자리 잡고 있으니 原州는 亦是 地理的으로 古今史가 實證하는 軍事中心地로 軍都며 兵馬의 高장이다.

歷史적으로 볼때 戰爭을 數없이 겪은 곳이고 보니 彼我間 이름없이 죽어간 人物들이 적지 않다. 그러기에 原城郡 板富面 金垓里 一輪谷에는 피(血)가 흘러 내(川)가 되었다는 「피내울」이라는 地名이 있고 兵馬의 屍體가 쌓여 치우기 힘이 들어서 생겼다는 「치내울」이 있는가 하면 原城郡 富論面 魯林里 같은 곳에서는 한 洞리가 無名將의 祭祀를 지내고 있으니, 戰鬪要衝地가 아니고서는 찾아 볼수 없는 일이라 하겠다. 때문에 原州에는 軍都祭라는 民俗的 文化行事가 舉行되기 始作하였다. 1973年度에 第1回 軍都祭를 舉市的으로 치른바 있으나, 이것이 年例行事로 持續되지 못하고 있다.

이와 같은 軍都며 武都 原州에서 두드러지게 사람들의 耳目을 끌고 있는 것 中에 碑石과 塔이 있다. 原州 文化劇場앞 路上에 花剛岩 自然石으로 十餘尺높이의 것이다. 이것이 앞에서 잠깐 言及한 바 있는 李 殷讚公의 追慕碑이다. 이 碑石에는 本人의 나라 생각하는 글이 한 首 남아 있다.

× × ×

一枝李樹作爲船 悠濟蒼生泊海邊

寸公未就身先溺 誰算東洋若萬年

譯: 한가지 오얏나무로 배를 만들어

억조창생을 전지려고 바다에 머물다가

뜻 이루지 못 한채 이몸이 먼저 가니

누구라서 동양의 앞날을 걱정 하리요.

마지막 刑場에서 읊은 明鏡止水와 같은 心情이 잘 나타나 있다.

歷史인 人物로서는 麗末 節義의 선비로 알려진 耘谷 元 天錫이 있는가 하면, 우리 나라 生六臣中의 한 사람인 觀瀾 元 昊가 原州사람이다. 「興亡이 有數하니 滿月台도 秋草로다, 五百年 王業이 牧笛에 부쳤으니 夕陽에 지나는 客이 눈물 겨워 하노라」 이와 같은 絕唱을 한 學者가 바로 耘谷이다. 그 혼해빠진 贈職 하나 없다. 그래서인지는 몰라도 原州 人物史에도 빠졌다. 없으면서도 있는 척, 모르면서도 아는척 하며 出世하려는 世上에 王이 맞으려 原州까지 왔으나 만나주지 아니 하였으니 志士다운 隱士요, 끝까지 節義를 지킨 선비라 하겠다. 以上 몇가지 人物과 碑石들을 살펴 보아도 文 보다는 武가 앞섰던 고장이다. 한편 產業에 있어서도 다른 곳에 빠지지 않는다. 부지런하고 儉素한 고을 사람의 品性은 그 고을의 歷史的 傳統性과 經濟的 條件이나 地政學的 與件등 여러가지에 依해서 알지못하는 사이에 이루어져 그 고장 사람들의 氣質을 形成하기도 한다.

虛白堂의 山水記 風俗篇에 보면 原州 사람의 氣質과 江陵사람의 氣質을 比較해 놓은 記事가 있다. 「江原道の 兩大雄都가 있다. 그것은 原州와 江陵이다」 이 兩大雄都는 地理的으로도 멀리 떨어져 있을 뿐 아니라, 風俗과 氣質의 差異가 많다. 原州에서는 아이를 낳으면 먼저 穀食을 주어 그것의 貴重함을 가르쳐 주고 出生兒에게 해마다 利息을 取하게 하는 한편 大端치 않은 物件이라 할지라도 아끼기를 千金과 같이 한다. 새벽 일찌기 일터에 나가 일을 하되 별로 쉬는 법이 없고 해가 저서 어두어야 집으로 돌아 온다. 婚姻을 지내도 서로 어울려서 마시는 法은 極히 없고, 하여간 時間을 貴重하게 여긴다. 或 놀고 지내는 사람이 있으면 비난의 대상이 된다. <그 아무는 그물을 만들어 고기나 잡으며 閑歲月을 보내고 있으니 한심하다느니, 또 아무는 山에서 鷹사냥이나 하면서 지내고 있으니 그것도 버린 사람이다> 라고 고을 사람들은 쭈근댄다. 그러니 이곳 原州에서는 부지런히 일하고 儉素한 生活을 하는 사람만을 容納하고 虛浪한 것이 있으면 마을에서 죽에도 끼지 못하게 된다.

그래서 그런지 原州에는 <잘사는 사람이 많으며 가난한 사람이 적다>라고 原州사람의 부지런함을 자랑했고, 江陵사람은「奢侈와 風流를 즐긴다」이렇게 比較하고 그 原因을 風土에 돌려 말했다. 原州는 자갈밭에 기름진 질퍽한 들판이 적으며 奇岩과 清流가 없으므로 놀만한 곳이 없어 이곳 사람의 勤勉性을 길러 왔다고 한다. 한편 江陵은 논 밭이 질퍽한데다가 鏡浦의 寒松과 같은 天下勝地가 있으므로 사람들이 놀기 좋아하고 奢侈스러워진다고 記述되어 있다. 그러나 近間에 와서는 많은 變化를 본다. 原州에는 60年以上을 이 고을에서 살고 있는 사람이 極히 적다. 대개는 6.25動亂以後에 흘러와서 사는 사람이 더욱 많아, 原州의 商權을 外來人들이 쥐고 左右하며 이제는 第二의 故鄉으로 삼고 있다. 元來의 住民들은 原城郡內 農村에서 農事에 從事하는 사람이 大部分이다. 6.25前만 하여도 本土住民이 區別될 수 있을 程度로 系譜가 뚜렷하게 나타나 있었다. 첫째로 丹邱의 洪判書宅하면 勢道가 堂堂하였다. 그러나 지금은 아주 없다고 할 만치 洪氏는 드물다. 또 原州에서 延安 金氏가 한 때 勢道家였지만, 지금은 安昌에 몇 집 살고 있을 뿐이고 魯林里 淸州 韓氏가 한때 大姓이었으나 지금은 그렇지 못하다. 丁氏亦是 그렇고 草溪 鄭氏와 原州 元氏 그리고 原州 李氏와 金海 金氏가 數의으로도 原州 本土民에 많다.

弓裔, 王建, 梁吉, 甄萱等 天下를 掌中에 넣어 보냈던 一世의 豪傑들이 戰亂을 이르켰던 由緒 깊은 古都로서는 너무나도 風流的 詩文을 찾을 수가 없다. 樓閣과 亭子是 文人的 風流生活에나 맞을 것이니 文鄉의 전속물이니 軍都에 무슨 소용이 있겠느냐, 할는지 모르지만 洗劍亭과 같은 亭子로 미루어 보거나 또 다른 고을에 存在하는 활터로 쓰는 亭閣이 반드시 文士들만의 專有物은 아닐진대, 이 고을에 올바른 樓亭 하나 없음이 武都라는 理由에서 만은 아닐 것 같고 그 궁금증을 虛白堂이 多少 풀어주고 있는것 같다. 丹邱에 月隱亭이 있었고 鳳山洞 龜石亭이 있었다. 現在 활터로 쓰여지고 있는 鶴鳳亭도 이름만은 亭 이름이로되 建物은 最近의 現代式이다. 옛 原州郡誌나 其他 文籍에 남아있는 것으로 미루어 보건대 奉命樓, 愚虛樓, 淸陰樓, 崇化亭, 等이 있으나 이것은 모두 原州, 丹邱, 酒泉等 옛 官衙안에 있던 樓亭으로서 지금은 하나도 없을 뿐만 아니라 남아 있는 記錄조차 없다. 樓閣으로 아직도 남아 있는 것은 宣威樓라는 江原監營 當時의 出入門樓뿐이다. 그것도 이름이 바뀌어 江原監營門樓라고 懸板이 붙어 있다. 어느 樓亭치고 由來가 없겠으며 懸板 하나 제대로 없으랴만 이 宣威樓는 한 날 出入門이었으니 懸板이 있을리가 없다. 記文 한장 남은게 없으니 쓸쓸하기 이룰데 없지만 이제와서는 별다른 도리가 없다. 樓亭에 따른 詩는 아니지만 郡誌中에 있는 禹承範의 詩에 보면,

× × ×

聞說元公杖劍行 壯心超邁葉儒生
一揮掃盡千年冠 獨立還同百雉城
從古國雲護遺跡 至今魚鳥畏盛名
男兒事業已如此 自笑冷儒常目耕

譯：元公의 勇猛한 武勇談 들으니

뛰어난 壯한 마음 儒生들 못 따르네
千年 敵勢를 한칼에 쓸어
百雉城은 외롭게 홀로 서 있다.
풍운 속에서도 유적은 지켜져
짐승들도 이름 듣고 무서워 한다.
사나이 사업이 이와 같은 걸
선비들 어찌하여 채만 읽는고.

第1編 總 論

도 洪 貴達의 詩에는

最愛田家生事足 一犁時復雨中耕

譯: 논 밭을 사랑하면 이로써 족해

빛속에 소를 몰아 밭을 가네

이와 같이 비오는 날에도 부지런히 밭을 간다 하였으니 이런 百姓에게 詩文이나 風流等屬은 한낱 허황한 것이었으리라. 그러기에 이곳 原州에 있는 亭子中에는 古來의 風流亭子나 詩人墨客들의 樓閣도 아닌 生業과 直結되는 亭子가 있다. 他地方에서는 찾아 볼수 없는 亭子리라. 그 중에 하나가 原城郡 所草面 斗獨里에 斗南亭이고 둘째가 누에 고개에 있는 天虫亭이다. 이와 같은 亭子가 있는 두 마을은 農村으로 日帝때에도 잘 알려졌던 곳이다.

※ 斗南亭 縣板의 글을 보면 예사 風流的 存在와는 다른게 있다.

×	×	×
先代卜地 建築亭	至子數次 重修亭	
東看雉岳 鷺飛亭	西帶蟾江 鷺遇亭	
南接人家 兒戲亭	北歸學校 客來亭	
後人若問 是何亭	示範農村 共會亭	

譯:「先代에 이 곳에 亭子를 지었고 後孫들이 지금 다시 重修를 했다. 동쪽 치악에 제비나르고, 서쪽 섬강엔 백로가 난다. 마을 아이들 여기에 모여 놀고, 학교에서 돌아오는 학생들 나그네 같다. 뒷사람들이 여기를 무어나 무르면 시범 농촌에 공회정이라 이르리라.

여기서 이 글로서 이러니 저러니 따질 必要는 없다. 다만 이 고장 사람들이 앞에서 洪 貴達의 詩에서 말한 바와 같이 <最愛田家 生事足>이라는 그 精神만 알면 足할 것이다. 한편 누에 고개에 있는 天虫亭도 이와 비슷하다. 赤是 所草面인데 原州에서 橫城으로 가는 國道邊 4km 地點에서 右側으로 큰 山 하나를 뽕나무 밭으로 만들었다. 이 곳을 「누에 고개」라고 한다. 누에 고개라고 하지만 고개가 아니고 큰 山 하나가 모두 뽕밭이며 그 頂上에 天虫亭이라는 亭子가 세워져 있다. 1968年度에 朴 敬遠 江原道知事가 <山으로 가자 바다로 가자>라는 口號를 내 세웠을 때 原城郡에서 이곳 山에다 뽕나무를 심기 始作하였고 이것이 全國에 알려졌다. 여기에 天虫亭이라는 亭閣도 이때에 마련되었고 뽕을 따는 婦女子들의 休息所로 마련된 것이다. 天虫이라는 말은 누에 「蠶字」를 解字한 이름이다. 이와 같이 亭名을 天虫으로 했으니, 다시 되풀이하는 것 같으나 洪 貴達의 詩文이 오늘에도 이 고장에서는 通하고 있는 셈이라고 하겠다, 이런 고장에서 琬風弄月 式的 樓亭이나 詩文을 찾자는 것이 오히려 罪스러운 일 같다. 輿地勝覽이나 實錄같은 文籍 外에 原州사람이 記錄한 文集이라고는 찾아볼 길이 없고 이 鄉土誌를 쓰면서도 材料蒐集에 보탬이 안 되는 實情이니 무슨 말을 하리요. 原州農耕에서 빼 놓을수 없는 人物이 또하나 있으니 그는 바로 永潮 趙 曦이다. 原城郡 地正面 良峴里 爵洞에서 태어나서 校理 東來府使 忠淸御使를 거쳐 副提學禮曹參議를 지내고 日本에 通信使로 갔다가 돌아오면서 우리나라에서는 처음으로 고구마 種子를 對馬島에서 輸入하여 栽培케 한 사람이다. 文 益漸이 中國에서 木花씨를 드려온 이야기는 널리 알려져 있으나 原州사람 趙 曦이 고구마를 처음으로 들여온 일은 널리 알려져 있지 않은 것 같다. 孫 晉泰의 「韓國民族文化的 研究」中 감자 傳播에 대한 이야기가 있을 뿐 아니라 永潮의 文集에도 이 事實이 쓰여져 있다. <馬島中有華根可食者名曰甘藷, 或謂孝子麻島之方音, 古貴爲麻>라고 叙述한 그의 글에는 栽培의 方法 및 由來 形態에 關하여 詳細하게 쓰여 있다. 亦是 <最愛田家生事足>이란 글귀에 알맞는 業績을 남긴 人物을 이 고장은 輩出했던 것이다. 原州가 옛날에는 雉岳山 너머 酒泉塲과 現 橫城郡 書院面 그리고 京畿道 驪州郡 康川面과 北內面 一

部가 모두 原州地域이었으니 面積으로도 相當히 넓다. 그렇기 때문에 寺刹關係나 書院등도 只
 今은 他郡에 있지만 옛 古書에는 原州로 되어있는 것이 많아서 자칫하면 잘못 알기가 쉽다. 때
 문에 寺刹에 있어서도 제일 먼저 나오는 것이 覺林寺이다. 覺林寺는 現 橫城郡 安興面에 있다.
 그리고 法泉寺, 興法寺, 桐華寺, 居頌寺, 文殊寺, 等の 寺刹이 代表的인 큰절이었으나 이미 그
 寺刹들은 없어진지 오래다. 그러나 寺址마다 그 由來와 遺物이 남아 있어 옛 절터였음을 말해
 준다. 覺林寺는 原州 雉岳山 동쪽 20km 地點에 있었다. 太宗이 登極하기 前에 여기서 글을 읽
 었다는 말도 있고 登極後에 耘谷을 찾아 다녀갔다는 말도 있다. 또한 圃隱의 門下生으로 高麗
 와 李朝에 걸쳐 알려진바 있는 文臣 卞季良도 覺林寺에 왔다가〈雉岳爲山名東海山之寶刹覺林最〉
 라고 표현한 것으로 보아 李朝初만 하여도 꽤 널리 알려졌던 모양이다. 原州近郊에서 가장 有
 名했던 절의 하나가 아마도 法泉寺가 아니었을까 한다. 只今은 遺蹟만이 남아 있는데 智光國師
 碑가 國寶로 保存되어 있다. 智光은 高麗 穆宗때 僧科에 及弟하여 大德이 되었고 三重大師 僧統
 이 되어 王師, 國師를 지낸 사람으로 晩年에 이곳 法泉寺에 와 있었다. 또한 富論面 鼎山里에
 居頌寺라는 절터도 高麗 顯宗의 王師였던 圓空國師의 勝妙塔碑가 寶物 第78號로 指定 保存되어
 있다. 이 碑文은 麗末에 海東孔子라고 알려졌던 崔冲의 것이다. 또한 只今은 없어지고 龜趺와
 螭首만이 남아있는 原城郡 地正面에 있는 興法寺 옛 터에 眞空大師碑도 傳해 들만한 說話가 있
 다. 眞空大師는 高麗太祖 때 사람으로 이 碑文은 太祖가 親히 지었고 글씨는 平章事 崔彥謨의
 아들이라서 글씨 잘 쓰기로 有名했던 崔光胤이 唐나라 太宗의 書法을 받아서 쓴 것으로 麗朝의
 大碩學 益齊 李齊賢이 〈象外眞天下之寶也〉라고 쓴 글이나 글씨가 天下의 寶物이라고 激讚했던
 것이다. 그러나 그 碑가 日帝初에 서울로 옮기려다가 破壞되어 散散 조각이 나서 없어졌는데
 多幸하게도 碑片 두 조각이 남아 있어 지금 서울 高麗大學에 保存되어 있다. 現在 原州, 原城 地
 域內에 남아 있는 古刹로는 九龍寺와 國享寺가 있을 뿐이고, 옛 터에 옛 이름으로 最近에 再建
 된 寺刹은 上院寺와 鵠原寺, 立石寺, 黃山寺, 石經寺, 普文寺 등이 있다. 그 外에 새로운 寺名
 으로 或은 옛 이름으로 創建된 것은 數多하나, 最近 5年來의 것이고 그 中에서도 靈泉寺, 神仙庵,
 法應寺 등은 代表的인 寺刹이다. 다음은 原州 原城地域의 姓氏로는 옛부터 元, 洪, 鄭, 丁, 이
 라고 해왔다. 이것은 옛날 이야기가 되고 只今은 姓氏考에서 詳細히 밝히겠지만 元氏는 原州 元
 氏를 말 할인데 事實上 原州에는 그 數가 不過 얼마 안된다. 같은 原州 元氏면서도 耘谷派와 觀
 蘭派가 始祖를 달리하고 있어 耘谷派의 原州 元氏 보다 觀蘭派의 原州 元氏의 數가 많다고는 하
 나 그 數는 大端치 못하다. 洪氏 亦是 옛날 洪判書를 가리켜서 大姓이라고 하였을 뿐 그 數는
 얼마 안된다. 韓氏 또한 韓百謙 韓駿謙등 人物이 많이 나와서 또한 魯林里 같은 곳에는 集團
 部落을 淸州 韓氏가 이루고 있었기 때문이었지만 只今은 그렇지도 못하다. 比較的 鄭氏는 相當
 히 繁昌하고 있다. 丁氏는 文幕과 富論에 많이 살고 있었으나, 그 數는 줄고 있다. 그後에 와서
 貴來面 龍岩里에서 부터 始作된 金海 金氏가 가장 많고 原州 李氏가 數는 많다고 하겠다. 原州
 에서 元, 洪, 鄭, 丁이라는 말은 數를 말한 것이 아니고 人物을 가지고 말한것 같다. 七峰書院에
 配享되였던 耘谷 元天錫과 龜岩 韓百謙, 莊襄公 鄭允謙등 一代의 人物들이 나왔고 널리 알려졌
 던 丹邱 洪判書 그리고 丁博士등으로서 나온 말이라고 하겠다. 原州에서 자랑할 수 있는 詩人
 을 찾아 본다면 朴竹西와 李達을 빼놓을 수 없다. 原州를 軍都라고 말했기 때문에 어울리지 않
 는 말이 될지 모르겠지만, 그래도 이 곳이 낳은 뛰어난 詩人에 두 사람이 있다. 그 한 사람은
 孫谷 李達이요 또 한 사람은 女流詩人으로 朴竹西가 있다. 李達은 原城郡 富論面 孫谷里에서
 살았으며 號를 耘谷 또는 東寶 西潭이라고 했다(人物編 參考). 女流詩人으로는 朴竹西를 손꼽지
 않을 수 없다. 女子의 社會活動이 거의 없던 時代에 朴竹西와 같이 뛰어난 女流詩人이 있었다

第1編 總 論

는 것은 凡常한 일이 아니다. 竹西는 朴 宗彥의 딸로 태어나서 어렸을 때 부터 詩作을 잘 하였다고 한다. 竹西가 7歲때에 지었다는 詩로

× × ×

問爾窓前鳥(창 가에 산새에게 묻노니)
何山宿早來(어디서 자고 이렇게 일찍 왔노)
應識山中事(山에서 왔으니 山中 일 알테지)
杜鵑何日開(두견화는 언제쯤 피게 되겠니)

× × ×

落花天氣似新秋(꽃길에 날씨는 초가을 같고)
夜靜銀河淡欲流(밤하늘의 銀河水 맑게 흐른다)
却恨此身不如鴈(기러기는 해마다 고향 찾지만)
年年未得到原州(어느때나 原州에 돌아가 볼고)

라고 이곳 親庭에 돌아오고 싶어 홀로 몸부림친 것이다. 竹西는 45歲를 一期로 世上을 떠났으나 뛰어난 文才에 比하면 그 一生은 순탄치 못하였든 모양이다. 그後 이렇다 할 詩人이 나오지 못하였다. 現世에 와서 文人으로 原州를 빛내는 洛山 朴 一松이 있다. 朴 一松은 現代 文人으로 또한 詩人으로 잘 알려져 있다(人物篇 參考)

朝鮮朝 宣祖 때에 吏曹判書를 지낸 松窩 李 旣의 文集인 「松窩雜說」이라는 데에 보면 「原州東南方有王氣」라는 句節이 있다. 그 內容은 蔚珍사람으로 南 師古라는 사람이 있었는데 재주가 뛰어나 여러번 鄉試에合格했으며 陰陽書에 通達하여 天文을 잘 보았다고 한다. 이름이 알려지게 되자 朝廷에서 그를 불러 東村의 職을 주었으나, 6品에 오르지 못한 채 서울에서 죽었는데 그가 남긴 말에 「原州東南方에 王氣가 있어 그 곳에서 國王이 날것이다」라고 天文을 보고 말했으나 그 때는 사람들이 이 말을 믿으려 하지 않았다. 그후 宣祖 壬辰年 여름에 宣祖의 嬪인 恭嬪이 낳은 光海君을 王世子로 冊封하여 다음 임금이 될것이 決定된 뒤에야 南 師古의 말이 들어맞았다고 사람들은 전하였다. 결국 恭嬪이 이곳 原州 東南方 孫谷里 사람이며, 그의 父母와 先祖가 모두 이곳에 살았고 그들의 墓도 이곳에 있다. 亦是「原州有王氣」라는 말이 그대로 맞아서 그런지는 모르나 原州는 王妃의 고장이다. 이 恭嬪 외에도 仁祖 反正으로 王妃가 된 仁烈王后도 原州 出身으로 얼마전만 해도 原州市內에 碑閣과 下馬碑까지 있었고 宣祖의 14名 王子中 유일한 正室 出身인 永昌大君의 어머니 仁穆王后도 이곳 原州出身인 金 悌男의 딸이다. 이와 같이 宣祖를 前後하여 原州는 國婚이 잦았던 것으로 보거나 앞에서 이야기한 朴 竹西 같은 才媛이 난것으로 보거나 李朝 때 原州는 女姓과 關係가 깊은 고장이다. 原州는 또 우리 新文學 初創期의 作家 菊初 李 仁植의 新小說 「雉岳山」에 依하여 알려진 곳이기도 하다. 只今도 原州市 丹邱洞에 洪判書의 後裔가 살고 있지만 菊初의 小說은 이 丹邱驛 마을에 살고 있던 洪判書家를 背景으로 삼아 小說 雉岳山을 엮은 것이다. 李朝 初葉에 文臣으로 鄭 麟趾와 함께 高麗史 編輯에 參與했고 벼슬이 右議政에 올라 佐理功臣 一等으로 茂松君에 進封된 樂閑齋 尹 子雲이 原州에 와서 「千年古國餘喬木 十里長江廻郡城」 즉 「千年古國엔 큰나무 우거지고 十里長江이 郡城을 돌렀다」라고 읍은 바와 같이 千年古都요, 오래도록 監營이었던 雄州라고 할만도 하다. 軍都로서도 옛부터 알려져 있고 農桑을 바탕으로 한 產業의 고장으로도 알려져 있었다. 江原道地方의 장타령 가운데 「한지 두자 三陟장, 배가 많아 못 보고, 명주 바퀴 原州장, 값이 비싸 못 보고」라는 장타령이 있다. 옛날에는 原州의 代表인 產物이 명주였던 모양이다. 그러기에 原州 雉岳山에 東岳祭壇이 있고, 여기서 각 고을 首領들이 모여 東岳祭를 올렸고 그뒤에 그자리에서 進上品으로 명

주를 썼다는 말도 있다. 오늘 날도 原州에 製絲工場이 있어 每日같이 명주실을 뽑아서 世界市場에 輸出을 하고 있다. 이제 原州는 工業의 發展도 期하고 있다. 옛 말인 丹邱鰲이니 艇舳을 그리고 牛山을 玉돌이라는 말은 完全히 옛 말이 되고, 이제는 工場, 住宅 등으로 메워져 가고 있다. 앞으로 10年이던 原州의 面貌는 또 달라질 것이다.

第3章 風土와 氣候

第1節 氣象概況

氣候라 함은 어떠한 地域의 每日 每日의 天氣 氣溫 降雨量 風向 風速等を 오랜 歲月을 두고 觀察 測定한 氣象變化의 總和의 平均 狀態를 말한다. 또한 氣候는 緯度 土地의 高度 海陸의 分布 地形 海流等 極히 複雜하고 多種類한 氣象因子가 作用하고 總和되어 그 地域의 氣候에 特性을 이루게 된다. 原州市와 原城郡은 江原道의 西南方에 자리잡고 있으며 北쪽은 橫城郡 西쪽은 京畿道 驪州郡 東쪽은 寧越郡 東南은 忠淸北道 堤川郡 南은 忠淸北道 中原郡에 各各 隣接하고 있으며 原州市는 東經 127度 21分 北緯 37度 21分 原城郡은 東經 127度 57分 北緯 37度 21分에 位置하고 있다. 原州와 原城은 東北方에 太白山脈으로 부터 白雲山 頂上으로 둘러 싸여있으며 海拔 1,288m의 雉岳山에 隣接하여 있다. 原州市는 雉岳山과 白雲山 두 山의 各 溪谷을 源泉으로 하는 英陽川, 丹溪川, 興陽川, 等 작은 河川이 合流하여 漢江의 支川인 原州川을 이루고 그 支流와 流域에 發達한 작은 平野는 農耕地로서 適合하나 市街의 外延(外延)으로 農地는 稀薄한 편이다. 한편 發展途上에 있는 山間都市로서 交通의 要地인 市는 商業이 發達하였고 特히 軍事都市로서 그 面貌를 갖추고 있으며 郡은 橫城 泰岐山을 上流로 하는 蟾江이 있으며 5個面 즉 所草, 好楮, 地正, 文幕, 富論을 貫流하며 또한 五臺山을 上流로 하는 寧越川과 蟾江이 合流하는 南漢江이 흐르고 山岳의 一部地域은 寒冷的 便이나 溫和하고 國土는 比較的 農耕에 適當한 곳이라 할 수 있다. 이 地方은 韓國氣候區로 보아 太白山, 雉岳山, 白雲山脈에 둘러쌓인 地形의 特徵으로 中部 西海岸 高原地帶 氣候區에 屬한다. 春季는 겨울 동안 極勢를 부리면 大陸性高氣壓이 驚蟄을 지나면서 衰弱하여지는 同時에 그 前面으로 부터 週期的으로 分離되는 移動性高氣壓이 通過함에 따라 天氣의 變動이 甚하여지고 降雨가 있을 때마다 氣溫의 變化가 甚하여 진다. 이 곳은 山岳地帶인 關係로 終霜(늦서리)이 늦고 初霜이 빠르며 無霜期間이 極히 짧아 作物生育期間의 長短을 決定하는 것으로서 營農에 至大한 影響을 미치는 것이다. 1974年度 이 고장에 終霜이 3月 28日 初霜이 1973年 10月 14日이었으니 無霜期間이 137日밖에 되지 않는다. 같은 市 郡內에서도 山岳 高原地帶인 雉岳山에 눈이 세번 와야 平地에 눈이 온다고 하는말은 옛 부터 傳하여 오는 말이지만은 現代에도 그 말과 같이 눈이 세번 온 뒤에야 市內에 첫눈이 나리게 된다. 첫눈은 1973年 11月 10日 마지막 눈은 1974年 4月 2日이 되어 첫 여름은 첫 서리가 내리던 1973年 10月 14日이고 마지막 結氷은 1974年 4月 3日이 된다. 그러므로 平地의 節候差가 한 節候 10餘日이나 되고 晝間과 夜間의 氣溫의 差가 甚하여 山岳地帶 氣候에 特性을 들어내고 있다. 그에 비해 極甚한 旱魃과 洪水는 드물어 凶年과 豐年의 差가 적다. 春期에는 比較的 乾燥하여 오히려 秋期에 비가 많이 온다. 3月과 9月인 季節風의 交替期에는 파사로운 봄날씨와 높고 맑은 가을 날씨가 繼續된다. 6月下旬에서 7月로 접어들면 「오호쓰구海」高氣壓이 其 方面의 海水溫이 上昇됨에 따라 衰弱하여 지는데 反하여 太平洋 高氣壓은 더욱 發達하여 日本 海上에서 發達된 亞熱帶 海洋氣團에서 高溫 多濕한 장마前線이 밀리어 장마 集中豪雨를 보게 된다. 이곳은 6月下旬부터 7月이 가장 降雨量이 많고 氣溫은 他地方에 比하여 急激히 上昇하며 氣溫이 最高 31度 2分 最低 22度가 된다. 이러한 高溫으로 農作物은 急速히 成長하며 좋은 收穫을 거둘 수

있으나 그 反面에 晝間의 氣溫에 比하여 밤에는 冷凉한 氣候로 뜻하지 않은 異常氣溫의 害를 입기도 하고 가을이자 겨울이 오는 느낌이 든다. 겨울철에는 大陸方面인 몽고나 시베리아地方의 强추위가 몰아닥쳐 雉岳山과 白雲山으로 둘러 싸여 最低 零下 22度까지 내려가서 大陸性 氣候인 3寒 4溫도 무색할 程度로 장기적 냉혹한 추위가 계속될 때도 있으나 年平均 氣溫은 最低 零下 12度로 나타나고 있다. 現代와 같은 文明 社會에서는 氣象이나 風向 등을 春川測候所 原城分室에서 觀測하여 주고 있어 便利하나 그 옛날에 抱川縣監이었던 權 琛先生은 天文에 매우 밝았다. 그래서 스승인 觀 瀾先生과 같이 40餘年 동안의 研究끝에 月計圖와 望月臺를 만들었다. 望月臺는 原城郡 所草面 德高山 주봉에서 「집신봉」까지가 2km가량 되는데 望月臺는 2km의 陵線이 南北으로 뻗은 西쪽 中間에 있는 셈이다. 月計圖는 이와 같은 地形을 폭 60cm 길이 40cm의 簡紙에 南北으로 그려 놓고 이것을 다시 60甲子로 區分한 것인데 40年間 實驗한 바 陰正月 대보름 달이 甲子之間으로 솟으면 龍이 잘 되고 乙丑之間에 뜨면 가물고 丙申之間에 뜨면 장마가 지고 等等 該博한 天文 知識과 研究를 土台로 적어 놓은 것이다. 그런데 이 月計圖가 어찌나 잘 맞아 나가는지 至今도 이 고장 사람들은 대보름만 되면 달 뜨기 전에 望月臺에 月計圖를 펴 놓고 德高山 주봉에서 집신봉까지를 마주바라 보다가 달이 돌아오르며 반짝하는 첫달의 金을 簡紙에 맞추어 보는 것이다. 1969年の 月計圖는 龍 凶年이 되고 穀食이 잘 여물지 않을 것이다 하였다는 데 과연 凶作이 兼하여 結實이 나뉘었던 것이었다. 望月臺라 함은 月計圖를 올려 놓는 곳이라고 하며 넓직한 花崗岩이 東쪽을 向해 놓여 있다. 原本은 6.25 당시 없어졌으나 꼭 같은 複製品이 남아있어 年間의 移徙日과 物價추세까지 알아 맞춘다고 한다. 屯屯골에는 月計圖 말고도 年間 農事氣象을 豫報하여 주는 靈泉이란 샘이 있다. 이 샘은 普通 매 고인물의 깊이는 「2미터」가량인데 겨울동안에 물이 넘치며는 그 해에 영락없이 큰 장마가 지고 물이 普通 때와 같으면 豐年이 들며 샘에 물이 마르게 되면 가물어서 凶年이 된다고 하여 이 곳 마을 사람들은 月計圖 외에 샘물을 보고 凶豐年을 豫測한다는 말이 된다. 그러나 요즘에 와서야 月世界를 잦다 왔다 하니 이것은 모두 옛말이 되어가고 있다.

第2節 天 氣

原州 原城의 맑은 날 日數는 年 70日中 月 平均 8日로서 8.7%이고 흐린 日數는 年 142日中 月 平均 12日로 11.8%이다. 흐린 날이 많은 季節은 亦是 雨期인 여름이고 적은 季節은 가을부터 겨울에 걸쳐 볼 수 있다. 맑은 季節은 그와 反對로 가을부터 겨울에 볼 수 있으며 적은 季節은 雨季인 夏節에 볼 수 있으며 天氣日數는 圖表와 같다.

天 氣 日 數

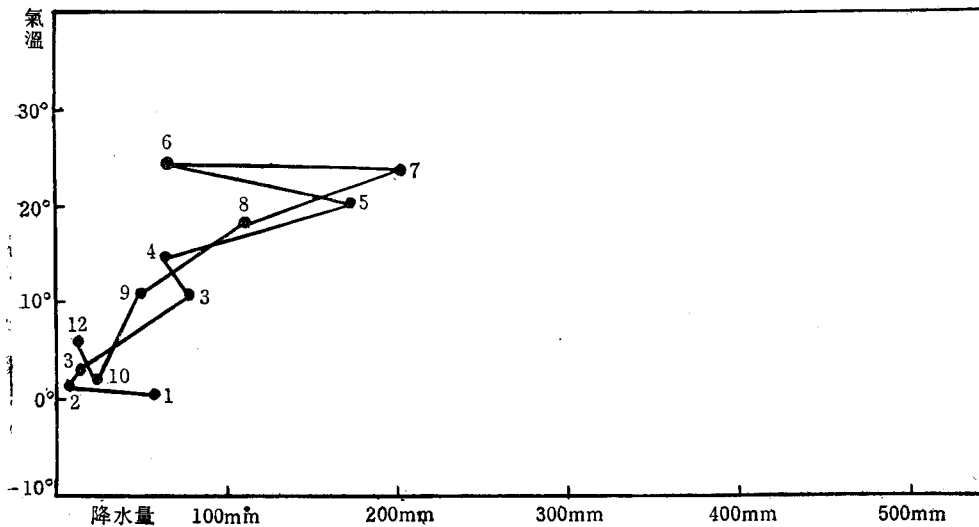
月 別			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
要 素	天	氣	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
서 리 눈			16	17	11	4	—	—	—	—	—	9	11	5
			9	1	2	—	—	—	—	—	—	—	5	15
			27	26	20	4	—	—	—	—	—	6	21	31
결 우 안			—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—
			1	4	3	1	1	5	4	9	21	8	3	—
			27	4	2	—	—	—	—	—	—	—	9	20
적 탐 호			5	11	8	6	5	—	—	—	3	11	9	12
			13	10	8	13	10	23	12	12	11	12	12	6
			7	2	4	10	9	15	6	12	11	10	10	10
강 폭 풍			—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
			—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
			—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

第3節 氣溫 및 降雨量

原州 原城地方의 氣溫은 東西海岸 兩側으로 부터 멀리 떨어져 있어서 氣溫의 交叉가 甚하여 大陸性 氣候의 特性을 나타내고 있으며 1973年을 基準으로 氣溫狀態를 統計上으로 보면 1年間에 平均 氣溫은 12.2度C. 1月의 平均 氣溫은 25.4度C를 나타내고 있다. 또한 1年間 平均 降水量은 79.4mm, 장마期에 접어든 6月의 降水量은 187.5mm, 8月에는 211.5mm에 達하고 있으며 氣象은 다음의 그리모 그래프 圖表와 같다.

原州 原城地方 氣象 그리모 그래프

(1974年 末現在)



平均氣溫 및 降水量

(1974年 末現在)

月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均計
平均 氣 溫	1.6	1.5	3.4	11.6	16.6	21.0	26.6	25.4	18.7	10.9	2.8	6.9	12.2°
平均 降 水 量	75.6	7.2	15.3	81.5	75.0	187.5	77.7	211.5	128.0	55.6	28.7	12.9	79.4mm

※ 기온 : °C

강수량 : mm

第4節 風向과 風速

原州 原城地方의 風向은 東南風이 가장 적절하며 3月에는 南南西風과 5, 6, 7月은 西北西風으로 바뀌고 8月에는 東南東風 9月에는 東北東 10月은 西北西風으로 계속 그 方向을 바꾸게 된다. 風速은 3月이 가장 甚하였는데 平均 19.4m/s로서 나타난 날은 3月 27日이고 24時間 平均 風速이 1.9m/s로 불고 있었으며 風向 및 風速狀況 氣象概況은 다음 圖表와 같다.

風向 및 風速狀況

(1974年 末現在)

月 別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
區 分												
最 多 風 向	WSW	WNW	SSW	ESE	WNW	WNW	WNW	ESE	ENE	WNW	ESE	SSE
平 均 風 速	0.75	1.73	19.4	1.78	1.84	1.18	1.02	1.05	6.84	0.90	1.54	1.32
最 大 風 向	NW	ESE	E	ENE	WNW	W	NNE	WSW	N	WNW	E	SSW
最 大 風 速	7.0	10.5	9.0	8.5	9.0	9.0	5.0	7.5	5.5	7.0	9.0	8.5
나 타 난 날	29	23	27	23	20	7	21	29	1	22	16	21
24시간 평균 풍속	0.8	1.6	1.9	1.8	1.7	1.2	1.0	0.9	0.9	1.0	1.1	1.3

※ W:서 S:남 N:북 E:동 풍속: m/s

기 상 개 황

(1974年 末現在)

月 別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
區 分												
기 온 °C												
최 고	3.4	4.7	9.6	18.3	22.8	26.0	31.2	29.8	24.5	17.3	8.2	0.16
최 저	-6.8	-5.6	-2.8	4.8	10.4	15.9	22.0	21.0	13.0	4.5	-2.7	12.0
평 균	1.6	1.5	3.4	11.6	16.6	21.0	26.6	25.4	18.7	10.9	2.8	6.9
습 도	80.6	68.40	63.7	67.4	65.7	74.5	79.0	83.1	82.0	77.0	73.8	74.7
기 압	4.65	2.37	0.76	95.62	93.32	90.06	89.99	93.09	95.19	1.51	2.08	3.00
증 발 량	0.86	1.61	2.63	3.52	4.71	4.03	5.17	3.57	2.80	1.98	1.32	1.05

※ 기온: °C 습도: % 기압: mb 증발량: mm

第5節 氣候와 動植物

모든 動植物이 그 지방 氣候에 따라 生長繁殖을 비롯한 捷息 또는 生態의 變化를 달리 하고 있다. 우리나라의 전반적인 氣候로는 植物에 있어서는 겨울철에 거의 生長을 멈추고 春夏에 生長하는가 하면 動物들도 개구리, 뱀, 곰과 같은 것은 冬眠을 하며 氣候에 따라 移居生活을 하는 候鳥와 族鳥등이 많이 있다. 이곳 原州地方을 中心으로 各種 動物과 昆虫 또는 植物의 出沒과 發芽 및 開花期를 살펴보면 다음과 같다.

動物의 出沒 및 植物의 發芽 開花狀況

(1974年 末現在)

동		물		식		물	
종	류	처음 본 날	마지막 본 날	종	류	개 화 기	
종	달 새	3月 29日	10月 23日	매	화	3月 22日	
개	구 리	4月 5日	10月 23日	개	나 리	3月 28日	
나	비	4月 5日	10月 23日	진	달 태	4月 2日	
개	미	4月 7日	10月 23日	사	과 나 무	4月 4日	
계	비	4月 15日	10月 15日	민	들 태	4月 4日	
모	기	4月 19日	11月 2日	복	숭 아	4月 8日	
	뱀	4月 25日	10月 15日	벗	꽃	4月 13日	
배	꾸 가	5月 8日	—	배	나 무	5月 17日	
잠	자 리	5月 17日	10月 19日	아	카 시 아	5月 17日	
매	미	7月 8日	9月 29日	합	박 꽃	9月 19日	

오 기	리 기	10月 11日 10月 15日	— 약년3月~5月	코 국	스 모	스 화	9月 6日 10月 13日
				포	플	라	4月 11日
				버	드	나	3月 20日
				감	나	무	4月 11日

第6節 風土와 動植物

이 고장 原州 原城地域의 動植物의 繁殖을 살펴보면 우리나라의 中部地帶인 同時 江原道の 南西端에 位置한 關係로 寒帶와 溫帶의 動植物이 함께 번식하는 곳이다. 雉岳山과 白雲山을 中心으로 高山植物을 비롯하여 各種 動植物이 生長棲息하고 있으나 戰亂으로 因하여 한때 멸종위기에 까지 다다른바 있으며 休戰後 政府의 적극적인 山林政策에 의하여 山林이 綠化되고 또한 自然保護에 힘쓰고 있어 다시 많은 野生動物을 비롯한 植物이 繁殖生長하고 있다. 이 地域은 江原道の 다른 곳과 特異한 점은 없고 雉岳山과 白雲山の 高原地帶에 若干의 高山植物이 자라고 있으나 크게 자랑거리는 없으며 거의 一般의인 動植物에 지나지 않는다. 한편 이 地域에서 繁殖 또는 棲息하는 各種 動植物의 內容을 大略 살펴보면 다음과 같다.

(1) 動物: 곰, 너구리, 호랑이, 여우, 다람쥐, 고슴도치, 뱀, 두더지, 들쥐, 박쥐, 살쾡이, 비둘기, 산비둘기, 산양, 족제비, 오소리, 담부, 산토끼, 늑대

(2) 鳥類: 참새, 뽕새, 종달새, 뿔종달새, 방울새, 할미새, 박새, 휘파람새, 딱새, 굴뚝새, 제비, 갈새, 쌍곡새, 파랑새, 호반새, 물총새, 청딱다구리, 뚝새, 두견새, 수리, 부엉이, 소쩍새, 올빼미, 매, 새매, 솔새, 백로, 기러기, 청둥오리, 비둘기, 산 비둘기, 뜸부기, 꿩, 메추라기, 꿩꼬리, 동박새

(3) 魚類: 이 지방에는 特異한 魚類가 없고 비교적 一般의인 魚類로서 大略 原州를 비롯하여 漢江支流인 蟾江流域에 淡水魚가 자라고 있을 뿐이다.

(4) 植物: 樹種—소나무, 잣나무, 참나무, 전나무, 분비나무, 갈잎나무, 가문비나무, 자작나무, 박달나무, 떡갈나무, 동백나무, 벚나무, 밤나무, 버드나무, 물오리나무, 오동나무, 싸구나무, 미루나무, 등이 代表的이나 此外에도 수십種의 나무가 자란다.

(5) 草植物—말풀, 고비, 고사리, 고추나물, 개박하, 팥대나물, 꿀풀, 팽이풀, 개미취, 구절초, 도깨비바늘, 참죽, 개방초, 달래, 취, 톨풀, 파랭이풀, 시금치, 명아주, 더덕, 미나리, 당귀, 할미꽃, 개미풀, 갈대, 바랭이, 억새, 잔디, 방동사니, 쇠비름, 애기똥, 망초, 질경이, 반하, 산철쭉, 도라지, 등이 代表的인 草植物이나 此外에도 數10科의 植物이 繁殖하고 있다.